

企業経営者意識調査

概況（令和5年7-9月）

P 1

調査結果

- | | | |
|---|---------------|------|
| 1 | 経営状況 | P 3 |
| 2 | 雇用状況 | P 7 |
| 3 | 在庫、価格水準 | P 11 |
| 4 | 設備投資の状況 | P 13 |
| 5 | 地域別にみる各産業の動向 | P 15 |
| 6 | 道内の景況感 | P 23 |
| 7 | 業種・地域別企業経営者の声 | P 24 |
| 8 | 業況感の長期推移 | P 29 |
- 

特別調査

- | | | |
|---|-------------------|------|
| 1 | 原油・原材料価格高騰の影響について | P 30 |
| 2 | 電気料金の上昇について | P 32 |
| 3 | 人手不足の状況について | P 33 |

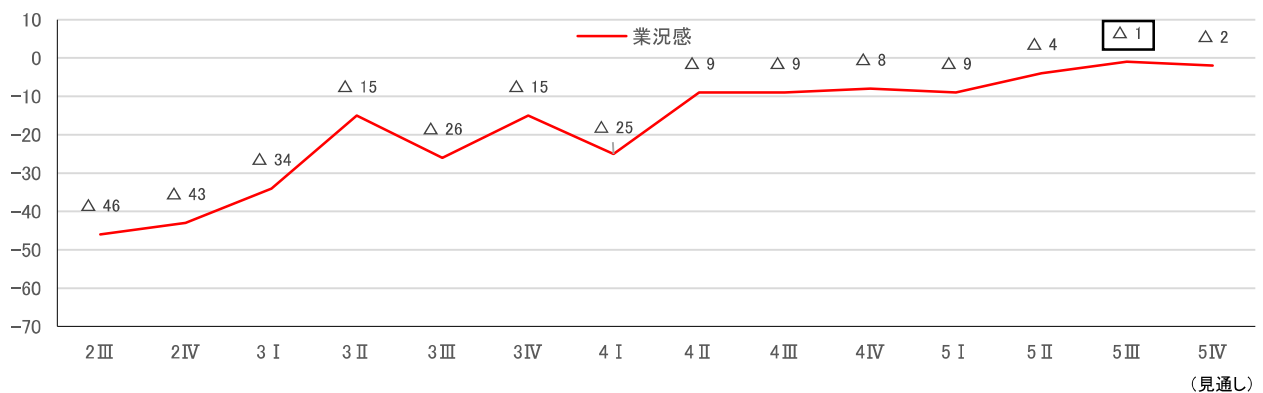
調査方法

P 35

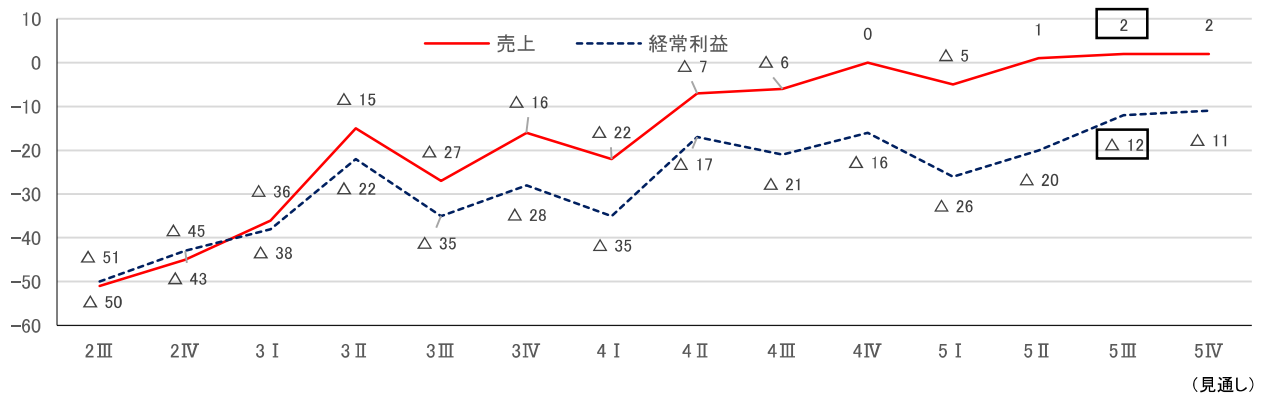
■ 調査対象企業数は900社、回答者数は504社、回答率は56.0%

- (1) 業況感は、前期から3ポイント上昇し△1ポイント。来期見通しは△2ポイント。
- (2) 売上は、前期から1ポイント上昇し2ポイント。
経常利益は、前期から8ポイント上昇し△12ポイント。
- (3) 資金繰りは、前期から3ポイント上昇し△6ポイント。
- (4) 雇用者の不足感は、前期から4ポイント上昇し50ポイント。
- (5) 1人当たりの賃金は、前期から3ポイント上昇し53ポイント。
- (6) 原材料価格(製造業)は、前期から1ポイント下降し77ポイント。
- (7) 仕入価格(卸売・小売業)は、前期から1ポイント下降し84ポイント。
- (8) 道内の景況感は、前期から7ポイント上昇し5ポイント。

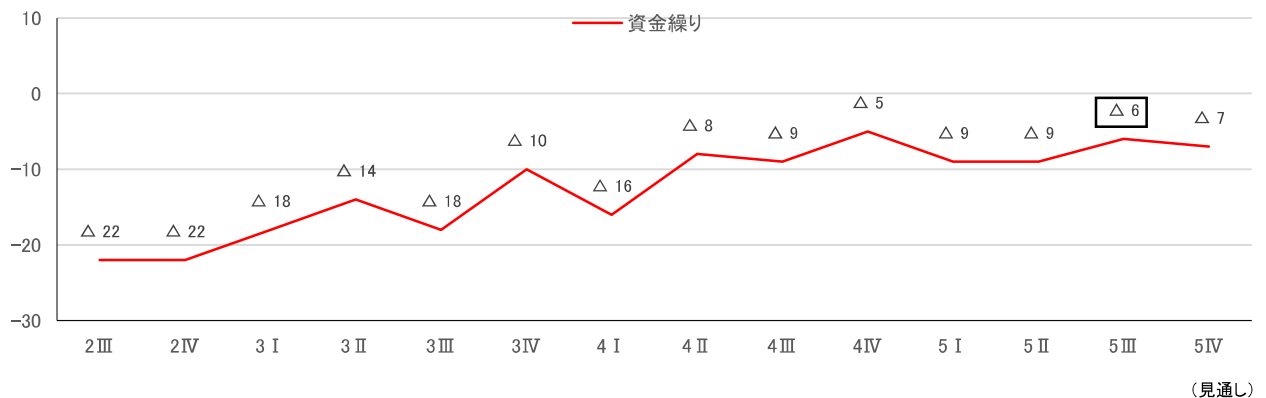
(1) 業況感(「上昇」-「下降」)



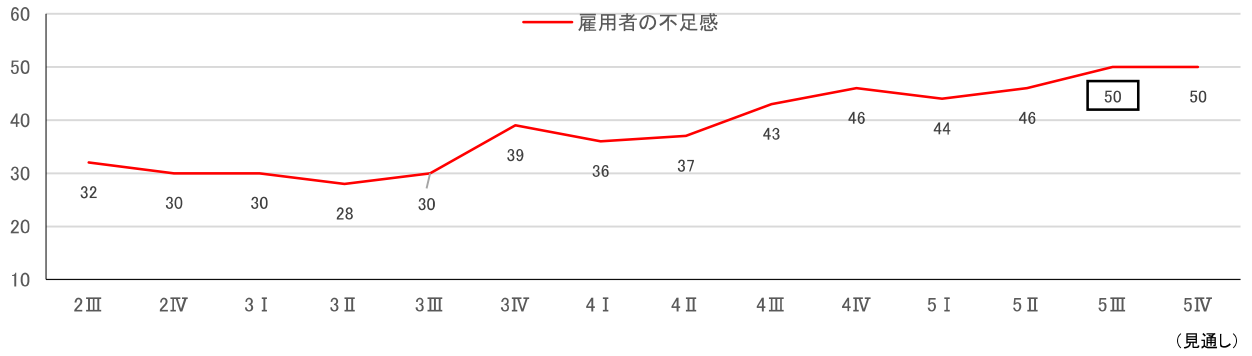
(2) 売上・経常利益(「増加」-「減少」)



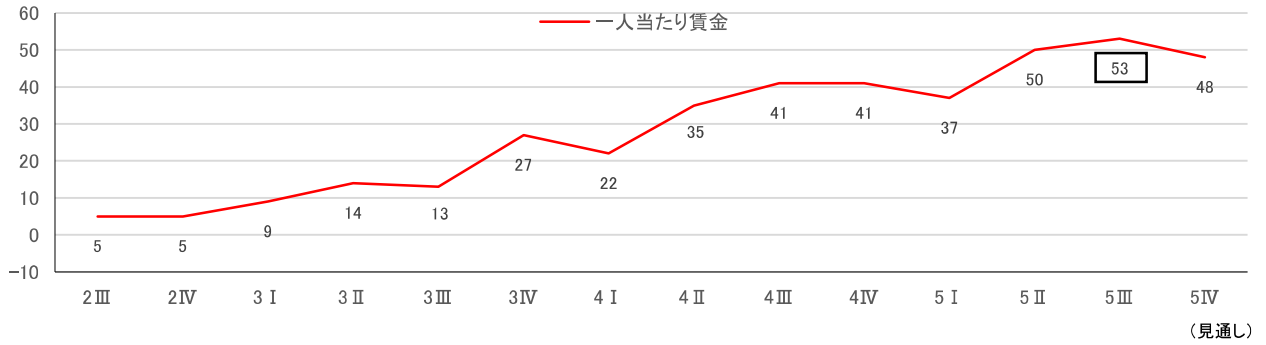
(3) 資金繰り(「改善」-「悪化」)



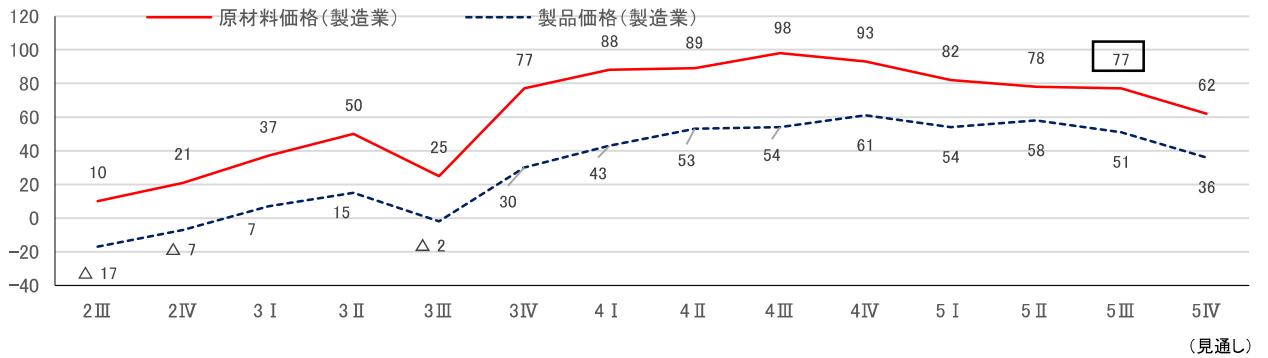
(4) 雇用者の不足感(「不足」-「過剰」)



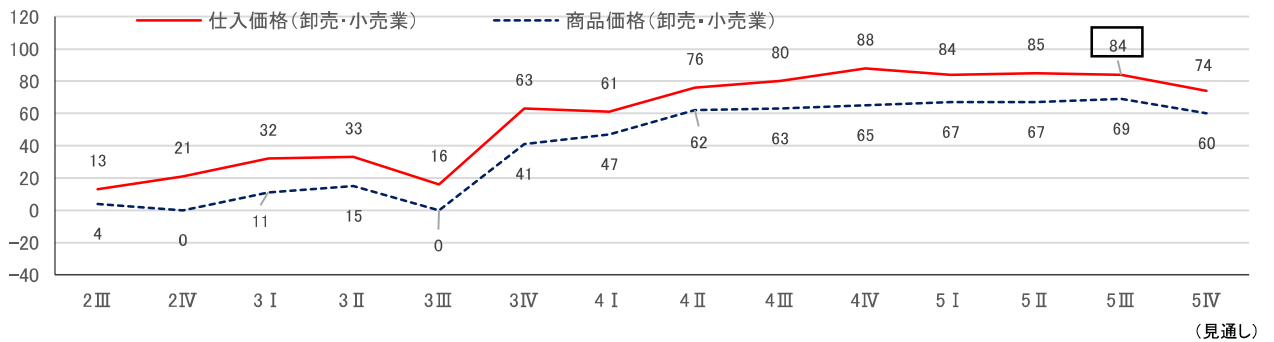
(5) 1人当たりの賃金(「増加」-「減少」)



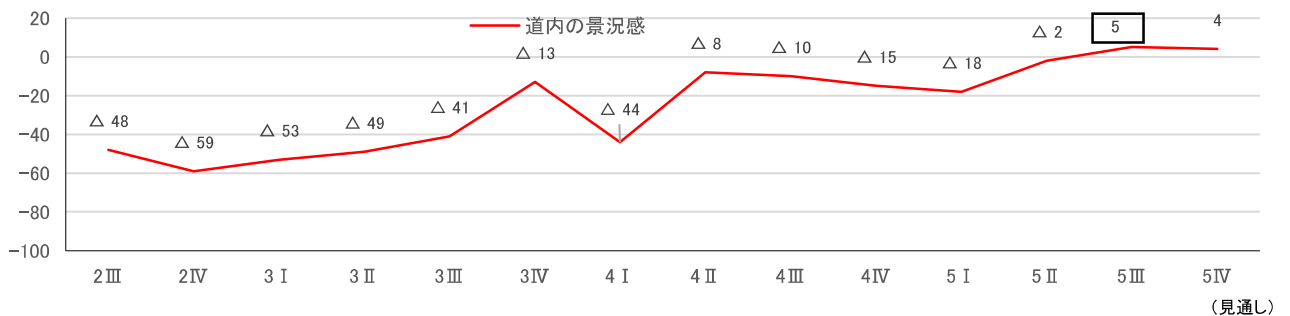
(6) 原材料価格・製品価格[製造業](「上昇」-「下降」)



(7) 仕入価格・商品価格[卸売・小売業](「上昇」-「下降」)



(8) 道内の景況感(「上昇」-「下降」)



2

調査結果

1 経営状況

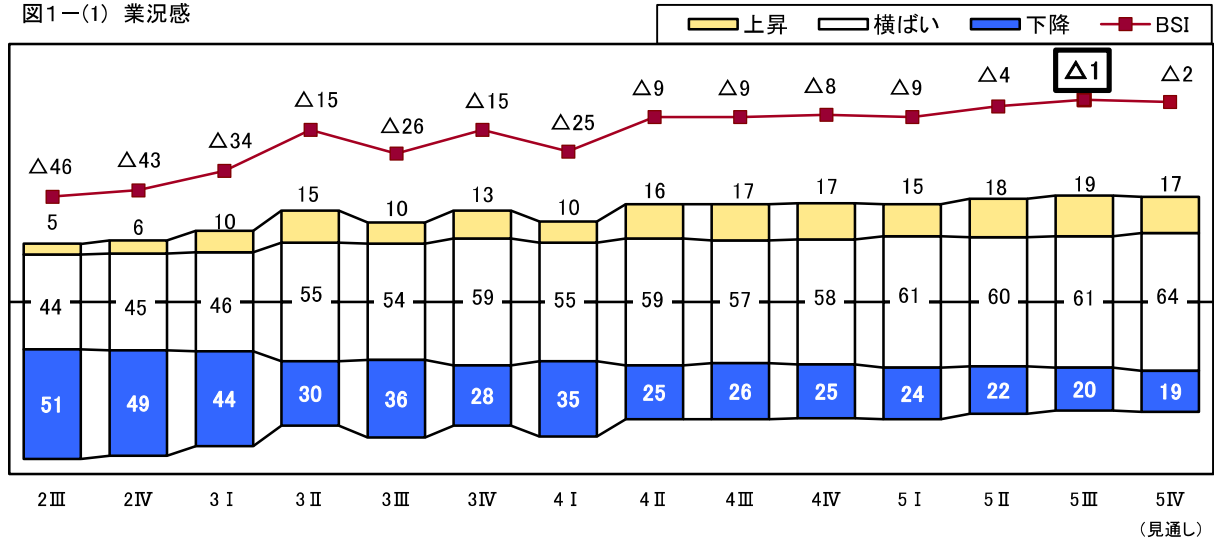
(1) 業況感

今期の業況感BSIは△1(前期から3ポイント上昇)

- 業種別にみると、運輸業、サービス業はプラス幅が拡大、建設業、卸売・小売業はマイナス幅が縮小、製造業はマイナス幅が拡大。
- 地域別にみると、道南はプラスに転換、道央はプラス幅が縮小、オホーツク、十勝はマイナス幅が縮小、道北、釧路・根室はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは△2(今期から1ポイント下降)

図1-(1) 業況感



(見通し)
※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

表1-(1) 業況感(業種・資本金・地域別)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績					R5年10-12月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
総計	△4	19	61	20	△1	3	17	64	19	△2	△1
札幌市を除く	△9	18	60	22	△4	5	15	64	21	△6	△2
札幌市	11	25	60	15	10	△1	24	66	10	14	4
業種											
建設業	△9	10	76	14	△4	5	6	81	13	△7	△3
製造業	△18	12	52	36	△24	△6	13	55	32	△19	5
卸売・小売業	△8	23	54	23	0	8	18	59	23	△5	△5
運輸業	2	22	61	17	5	3	22	65	13	9	4
サービス業	6	26	60	14	12	6	23	63	14	9	△3
資本金											
5千万円未満	△9	18	60	22	△4	5	15	63	22	△7	△3
5千万円以上～1億円未満	0	20	61	19	1	1	21	63	16	5	4
1億円以上	13	27	59	14	13	0	23	69	8	15	2
地域											
道南	△23	19	63	18	1	24	15	67	18	△3	△4
道央	6	22	61	17	5	△1	21	66	13	8	3
札幌市を除く	0	17	63	20	△3	△3	16	68	16	0	3
札幌市	11	25	60	15	10	△1	24	66	10	14	4
道北	△2	18	58	24	△6	△4	9	64	27	△18	△12
オホーツク	△21	17	59	24	△7	14	20	56	24	△4	3
十勝	△13	25	48	27	△2	11	19	60	21	△2	0
釧路・根室	△12	7	71	22	△15	△3	13	61	26	△13	2

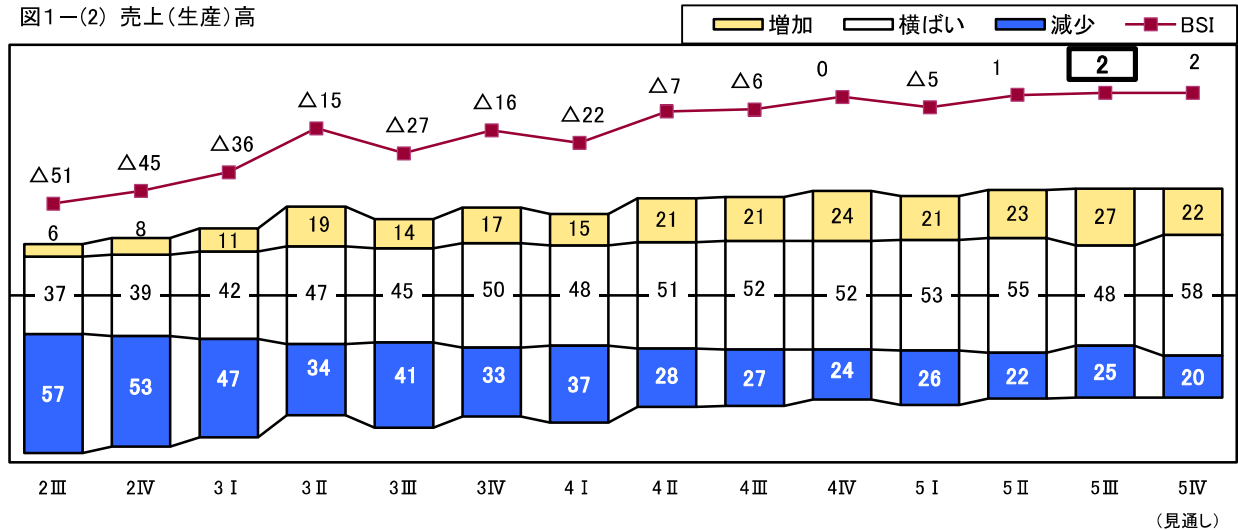
(2) 売上(生産)高

今期の売上(生産)高BSIは2(前期から1ポイント上昇)

- ・ 業種別で見ると、卸売・小売業、サービス業はプラス幅が拡大、運輸業はプラス幅が縮小、建設業、製造業はマイナス幅が拡大。
- ・ 地域別で見ると、道央はプラス幅が拡大、道北はマイナスに転換、道南、オホーツク、十勝はマイナス幅が縮小、釧路・根室はマイナス幅が拡大。

来期の売上(生産)高BSIは2(今期から横ばい)

図1-(2) 売上(生産)高



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」-「減少」)

表1-(2) 売上(生産)高(業種・資本金・地域別)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績					R5年10-12月見通し				
		増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総計	1	27	48	25	2	1	22	58	20	2	0
札幌市を除く	△6	25	48	27	△2	4	20	56	24	△4	△2
札幌市	20	35	48	17	18	△2	29	66	5	24	6
業種											
建設業	△3	14	63	23	△9	△6	7	70	23	△16	△7
製造業	△8	27	37	36	△9	△1	22	48	30	△8	1
卸売・小売業	2	33	41	26	7	5	24	56	20	4	△3
運輸業	4	26	49	25	1	△3	26	55	19	7	6
サービス業	5	31	52	17	14	9	27	61	12	15	1
資本金											
5千万円未満	△5	24	49	27	△3	2	19	57	24	△5	△2
5千万円以上~1億円未満	5	28	46	26	2	△3	22	61	17	5	3
1億円以上	16	36	50	14	22	6	31	64	5	26	4
地域											
道南	△13	29	40	31	△2	11	21	53	26	△5	△3
道央	11	31	51	18	13	2	25	64	11	14	1
札幌市を除く	0	24	58	18	6	6	21	62	17	4	△2
札幌市	20	35	48	17	18	△2	29	66	5	24	6
道北	4	27	45	28	△1	△5	15	58	27	△12	△11
オホーツク	△13	17	59	24	△7	6	20	53	27	△7	0
十勝	△15	27	42	31	△4	11	25	48	27	△2	2
釧路・根室	△11	19	46	35	△16	△5	15	55	30	△15	1

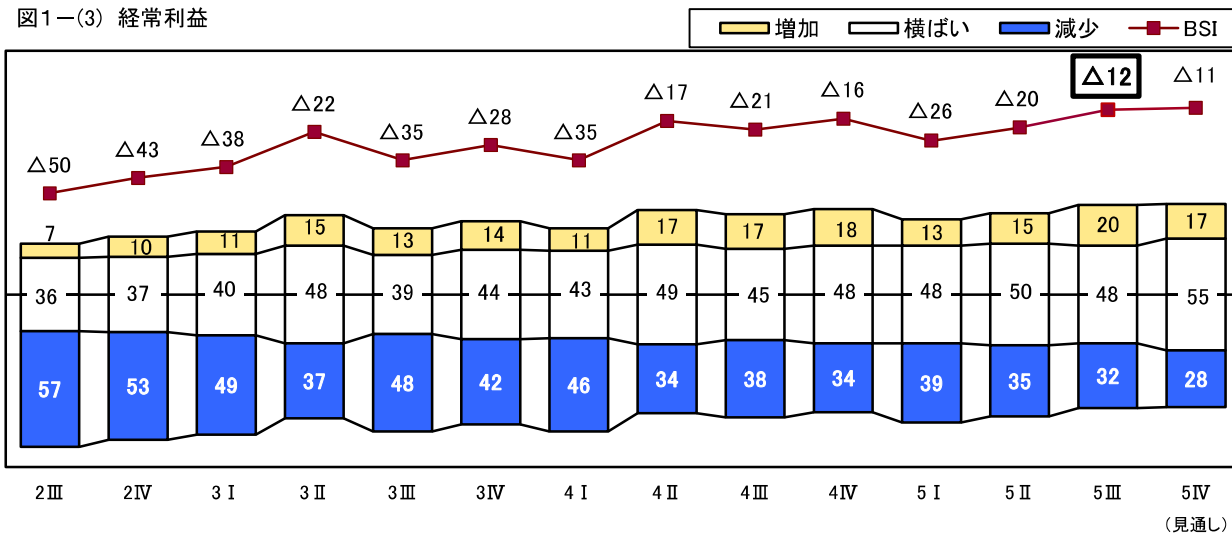
(3) 経常利益

今期の経常利益BSIは △12(前期から8ポイント上昇)

- ・ 業種別で見ると、サービス業はプラスに転換、その他の業種はマイナス幅が縮小。
- ・ 地域別で見ると、全ての地域でマイナス幅が縮小。

来期の経常利益BSIは △11(今期から1ポイント上昇)

図1-(3) 経常利益



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」-「減少」)

表1-(3) 経常利益(業種・資本金・地域別)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績					R5年10-12月見通し				
		増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総計	△ 20	20	48	32	△ 12	8	17	55	28	△ 11	1
札幌市を除く	△ 26	19	47	34	△ 15	11	15	52	33	△ 18	△ 3
札幌市	1	25	51	24	1	0	24	63	13	11	10
業種											
建設業	△ 31	8	63	29	△ 21	10	6	62	32	△ 26	△ 5
製造業	△ 27	18	40	42	△ 24	3	19	48	33	△ 14	10
卸売・小売業	△ 24	23	41	36	△ 13	11	16	48	36	△ 20	△ 7
運輸業	△ 19	22	43	35	△ 13	6	18	52	30	△ 12	1
サービス業	△ 6	27	51	22	5	11	24	60	16	8	3
資本金											
5千万円未満	△ 23	18	47	35	△ 17	6	14	53	33	△ 19	△ 2
5千万円以上~1億円未満	△ 21	25	50	25	0	21	22	59	19	3	3
1億円以上	2	26	47	27	△ 1	△ 3	27	54	19	8	9
地域											
道南	△ 36	23	43	34	△ 11	25	21	47	32	△ 11	0
道央	△ 7	24	51	25	△ 1	6	19	63	18	1	2
札幌市を除く	△ 16	20	54	26	△ 6	10	13	63	24	△ 11	△ 5
札幌市	1	25	51	24	1	0	24	63	13	11	10
道北	△ 25	18	40	42	△ 24	1	14	48	38	△ 24	0
オホーツク	△ 28	15	48	37	△ 22	6	15	46	39	△ 24	△ 2
十勝	△ 28	21	44	35	△ 14	14	15	48	37	△ 22	△ 8
釧路・根室	△ 32	11	54	35	△ 24	8	13	54	33	△ 20	4

(4) 資金繰り

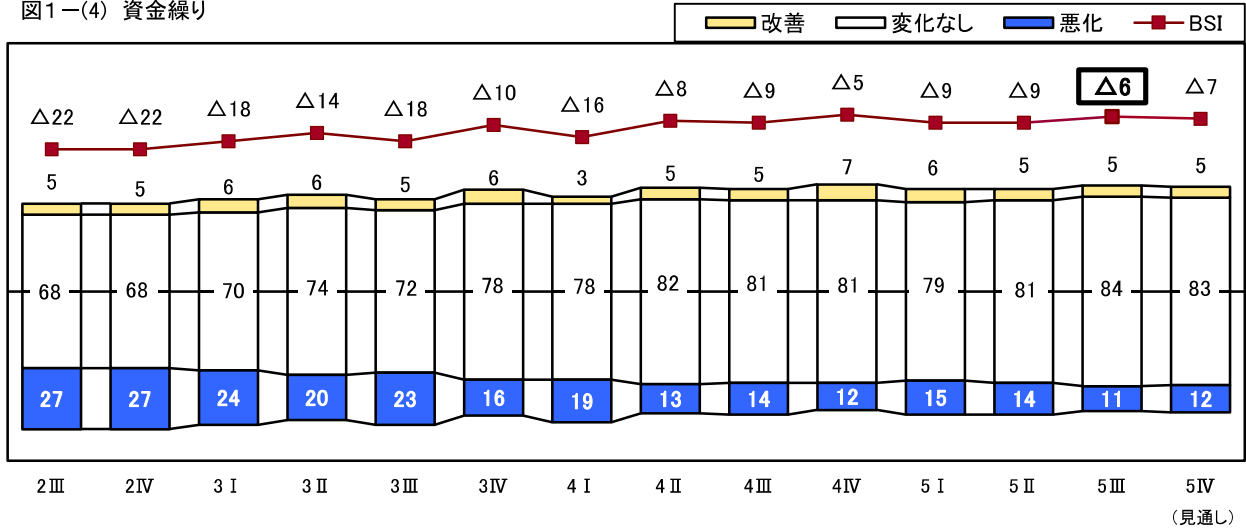
今期の資金繰りBSIは △6(前期から3ポイント上昇)

・ 業種別にみると、製造業は横ばい、その他の業種はマイナス幅が縮小。

・ 地域別にみると、道央、オホーツクは横ばい、道南、道北、十勝、釧路・根室はマイナス幅が縮小。

来期の資金繰りBSIは △7(今期から1ポイント下降)

図1-(4) 資金繰り



※「改善」「変化なし」「悪化」は%、BSIはポイント(「改善」-「悪化」)

表1-(4) 資金繰り(業種・資本金・地域別)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績					R5年10-12月見通し				
		改善	変化なし	悪化	BSI	変化幅	改善	変化なし	悪化	BSI	変化幅
総計	△ 9	5	84	11	△ 6	3	5	83	12	△ 7	△ 1
札幌市を除く	△ 12	4	84	12	△ 8	4	4	83	13	△ 9	△ 1
札幌市	0	9	81	10	△ 1	△ 1	7	87	6	1	2
業種											
建設業	△ 7	2	90	8	△ 6	1	1	92	7	△ 6	0
製造業	△ 8	6	80	14	△ 8	0	6	84	10	△ 4	4
卸売・小売業	△ 13	5	78	17	△ 12	1	7	74	19	△ 12	0
運輸業	△ 8	3	91	6	△ 3	5	1	89	10	△ 9	△ 6
サービス業	△ 9	7	83	10	△ 3	6	6	83	11	△ 5	△ 2
資本金											
5千万円未満	△ 13	4	83	13	△ 9	4	3	83	14	△ 11	△ 2
5千万円以上～1億円未満	△ 3	9	81	10	△ 1	2	8	83	9	△ 1	0
1億円以上	0	5	91	4	1	1	7	89	4	3	2
地域											
道南	△ 26	5	82	13	△ 8	18	3	82	15	△ 12	△ 4
道央	△ 4	7	82	11	△ 4	0	6	85	9	△ 3	1
札幌市を除く	△ 8	4	84	12	△ 8	0	4	85	11	△ 7	1
札幌市	0	9	81	10	△ 1	△ 1	7	87	6	1	2
道北	△ 8	6	81	13	△ 7	1	8	75	17	△ 9	△ 2
オホーツク	△ 5	2	91	7	△ 5	0	0	90	10	△ 10	△ 5
十勝	△ 13	4	83	13	△ 9	4	2	88	10	△ 8	1
釧路・根室	△ 18	0	89	11	△ 11	7	6	79	15	△ 9	2

2 雇用状況

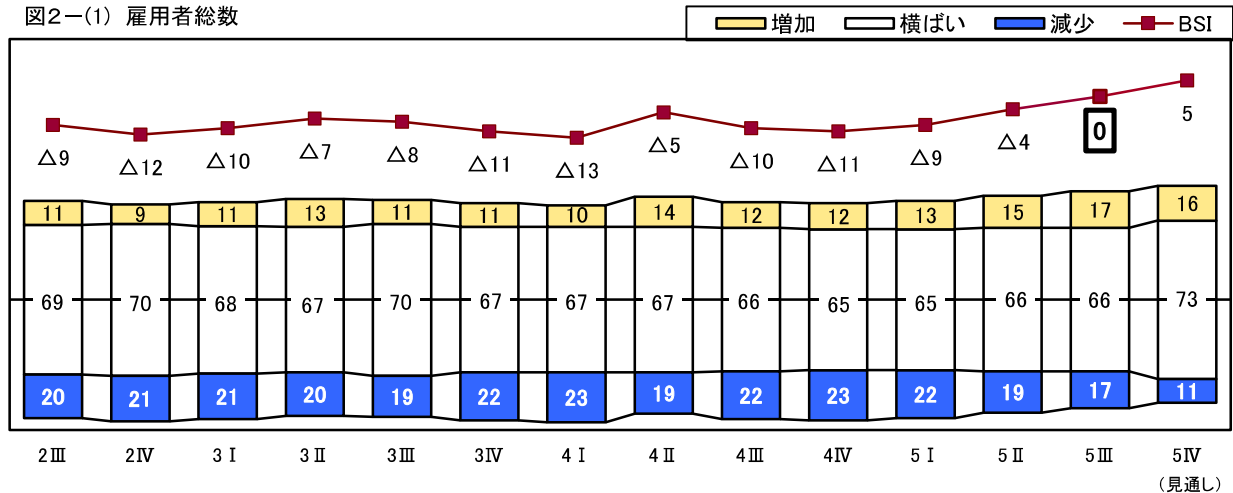
(1) 雇用者総数

今期の雇用者総数BSIは 0(前期から4ポイント上昇)

- 業種別にみると、運輸業はプラスに転換、サービス業はプラス幅が拡大、卸売・小売業はプラス幅が縮小、建設業はマイナスに転換、製造業はマイナス幅が縮小。
- 地域別にみると、道央、十勝がプラスに転換、道南がマイナスに転換、道北、オホーツク、釧路・根室がマイナス幅が縮小。

来期の雇用者総数BSIは 5(今期から5ポイント上昇)

図2-(1) 雇用者総数



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」-「減少」)

表2-(1) 雇用者総数(業種・資本金・地域別)

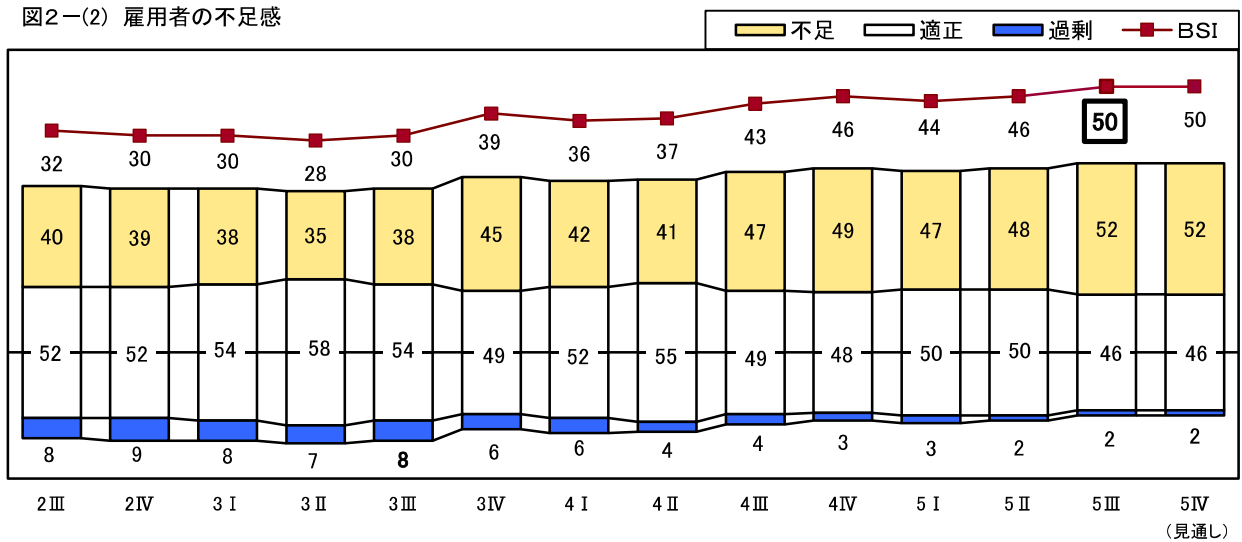
区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績					R5年10-12月見通し				
		増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総計	△4	17	66	17	0	4	16	73	11	5	5
札幌市を除く	△6	13	70	17	△4	2	14	74	12	2	6
札幌市	3	28	57	15	13	10	23	69	8	15	2
業種											
建設業	2	14	69	17	△3	△5	14	76	10	4	7
製造業	△22	7	70	23	△16	6	12	74	14	△2	14
卸売・小売業	4	16	70	14	2	△2	19	71	10	9	7
運輸業	△6	19	64	17	2	8	5	78	17	△12	△14
サービス業	1	23	63	14	9	8	23	69	8	15	6
資本金											
5千万円未満	△8	14	70	16	△2	6	14	74	12	2	4
5千万円以上~1億円未満	9	21	62	17	4	△5	20	69	11	9	5
1億円以上	1	22	58	20	2	1	18	73	9	9	7
地域											
道南	0	10	72	18	△8	△8	16	74	10	6	14
道央	0	20	67	13	7	7	16	76	8	8	1
札幌市を除く	△2	9	79	12	△3	△1	7	85	8	△1	2
札幌市	3	28	57	15	13	10	23	69	8	15	2
道北	△8	18	59	23	△5	3	17	64	19	△2	3
オホーツク	△15	10	70	20	△10	5	10	80	10	0	10
十勝	△2	15	72	13	2	4	17	70	13	4	2
釧路・根室	△11	15	65	20	△5	6	17	68	15	2	7

(2)雇用者の不足感

今期の雇用者の不足感BSIは 50(前期から4ポイント上昇)

- ・ 業種別にみると、製造業はプラス幅が縮小、その他の業種はプラス幅が拡大。
- ・ 地域別にみると、オホーツクは横ばい、その他の地域はプラス幅が拡大。

来期の雇用者の不足感BSIは 50(今期から横ばい)



※「不足」「適正」「過剰」は%、BSIはポイント(「不足」-「過剰」)

表2-(2) 雇用者の不足感(業種・資本金・地域別)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績					R5年10-12月見通し				
		不足	適正	過剰	BSI	変化幅	不足	適正	過剰	BSI	変化幅
総計	46	52	46	2	50	4	52	46	2	50	0
札幌市を除く	47	55	43	2	53	6	54	44	2	52	△1
札幌市	42	43	54	3	40	△2	45	52	3	42	2
業種											
建設業	56	71	28	1	70	14	75	24	1	74	4
製造業	43	44	51	5	39	△4	47	50	3	44	5
卸売・小売業	39	49	48	3	46	7	47	50	3	44	△2
運輸業	54	57	42	1	56	2	58	41	1	57	1
サービス業	41	45	54	1	44	3	42	56	2	40	△4
資本金											
5千万円未満	44	50	48	2	48	4	51	47	2	49	1
5千万円以上~1億円未満	48	60	35	5	55	7	58	39	3	55	0
1億円以上	50	50	47	3	47	△3	51	46	3	48	1
地域											
道南	36	52	42	6	46	10	52	40	8	44	△2
道央	42	47	50	3	44	2	48	50	2	46	2
札幌市を除く	43	49	48	3	46	3	51	47	2	49	3
札幌市	42	43	54	3	40	△2	45	52	3	42	2
道北	52	56	43	1	55	3	56	44	0	56	1
オホーツク	59	59	41	0	59	0	56	44	0	56	△3
十勝	51	58	42	0	58	7	56	44	0	56	△2
釧路・根室	41	57	41	2	55	14	56	42	2	54	△1

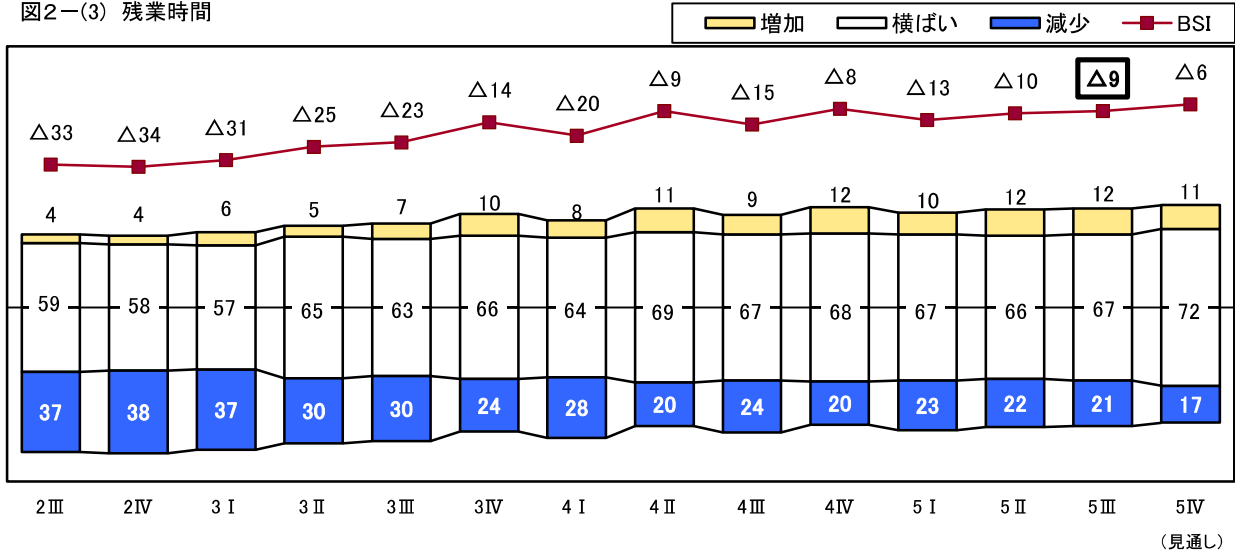
(3) 残業時間

今期の残業時間BSIは△9(前期から1ポイント上昇)

- ・ 業種別にみると、サービス業はプラスに転換、製造業は横ばい、卸売・小売業はマイナス幅が縮小、建設業、運輸業はマイナス幅が拡大。
- ・ 地域別にみると、道央は横ばい、道北、オホーツク、十勝はマイナス幅が縮小、道南、釧路・根室はマイナス幅が拡大。

来期の残業時間BSIは△6(今期から3ポイント上昇)

図2-(3) 残業時間



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」-「減少」)

表2-(3) 残業時間(業種・資本金・地域別)

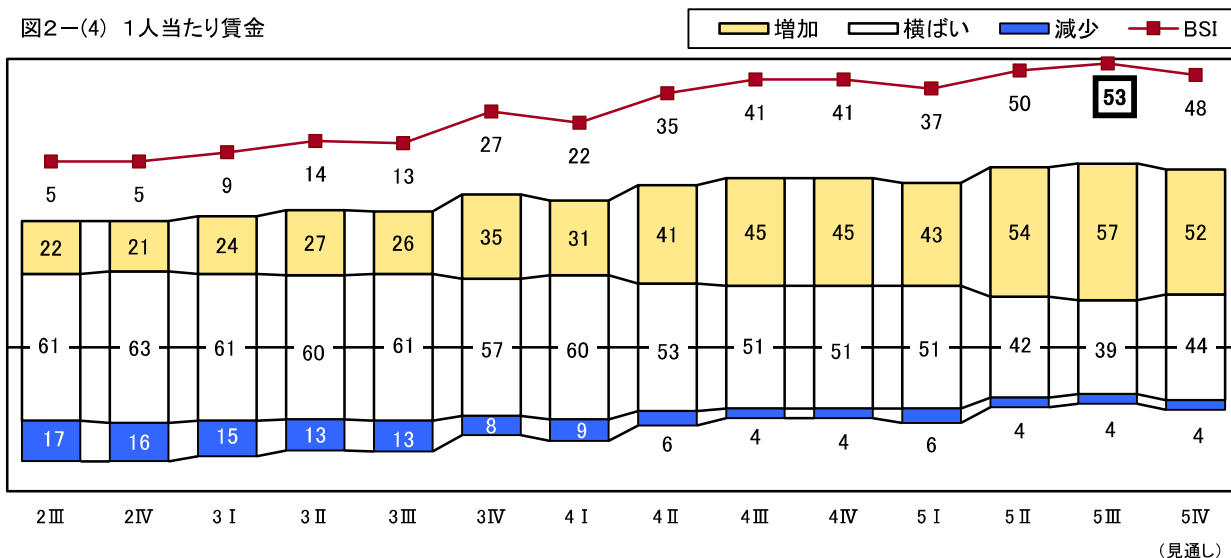
区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績					R5年10-12月見通し				
		増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総計	△10	12	67	21	△9	1	11	72	17	△6	3
札幌市を除く	△15	11	67	22	△11	4	11	70	19	△8	3
札幌市	4	14	68	18	△4	△8	13	76	11	2	6
業種											
建設業	△20	5	67	28	△23	△3	5	67	28	△23	0
製造業	△15	9	67	24	△15	0	7	77	16	△9	6
卸売・小売業	△9	11	71	18	△7	2	13	77	10	3	10
運輸業	△4	9	62	29	△20	△16	10	65	25	△15	5
サービス業	△5	19	67	14	5	10	18	71	11	7	2
資本金											
5千万円未満	△13	10	65	25	△15	△2	11	70	19	△8	7
5千万円以上~1億円未満	△6	15	68	17	△2	4	13	70	17	△4	△2
1億円以上	0	16	76	8	8	8	12	80	8	4	△4
地域											
道南	△9	13	64	23	△10	△1	11	70	19	△8	2
道央	△2	15	68	17	△2	0	12	76	12	0	2
札幌市を除く	△10	15	69	16	△1	9	9	78	13	△4	△3
札幌市	4	14	68	18	△4	△8	13	76	11	2	6
道北	△15	14	62	24	△10	5	17	61	22	△5	5
オホーツク	△21	7	71	22	△15	6	10	70	20	△10	5
十勝	△24	6	67	27	△21	3	10	71	19	△9	12
釧路・根室	△13	4	72	24	△20	△7	6	72	22	△16	4

(4) 1人当たり賃金

今期の1人当たり賃金BSIは53(前期から3ポイント上昇)

- ・ 業種別にみると、建設業、製造業、サービス業はプラス幅が拡大、卸売・小売業、運輸業はプラス幅は縮小。
- ・ 地域別にみると、道南、道央、オホーツク、十勝はプラス幅が拡大、道北、釧路・根室はプラス幅が縮小。

来期の1人当たり賃金BSIは48(今期から5ポイント下降)



※「増加」「横ばい」「減少」は%、BSIはポイント(「増加」-「減少」)

表2-(4) 1人当たり賃金(業種・資本金・地域別)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績					R5年10-12月見通し				
		増加	横ばい	減少	BSI	変化幅	増加	横ばい	減少	BSI	変化幅
総計	50	57	39	4	53	3	52	44	4	48	△5
札幌市を除く	48	54	41	5	49	1	51	45	4	47	△2
札幌市	58	68	31	1	67	9	59	40	1	58	△9
業種											
建設業	66	75	24	1	74	8	71	27	2	69	△5
製造業	44	59	36	5	54	10	53	43	4	49	△5
卸売・小売業	55	55	42	3	52	△3	50	47	3	47	△5
運輸業	49	47	45	8	39	△10	40	54	6	34	△5
サービス業	45	53	44	3	50	5	49	48	3	46	△4
資本金											
5千万円未満	46	50	45	5	45	△1	47	49	4	43	△2
5千万円以上~1億円未満	55	69	29	2	67	12	63	34	3	60	△7
1億円以上	69	77	22	1	76	7	64	35	1	63	△13
地域											
道南	40	47	51	2	45	5	48	50	2	46	1
道央	53	61	36	3	58	5	54	43	3	51	△7
札幌市を除く	46	54	41	5	49	3	48	46	6	42	△7
札幌市	58	68	31	1	67	9	59	40	1	58	△9
道北	57	59	36	5	54	△3	56	41	3	53	△1
オホーツク	43	61	34	5	56	13	56	42	2	54	△2
十勝	49	63	31	6	57	8	56	38	6	50	△7
釧路・根室	50	44	50	6	38	△12	39	54	7	32	△6

3 在庫、価格水準

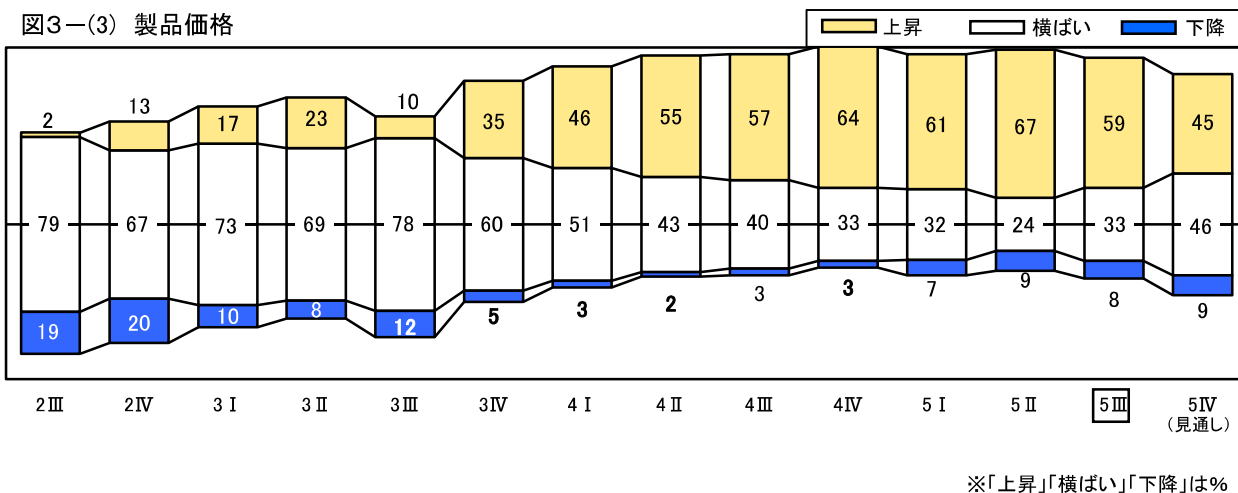
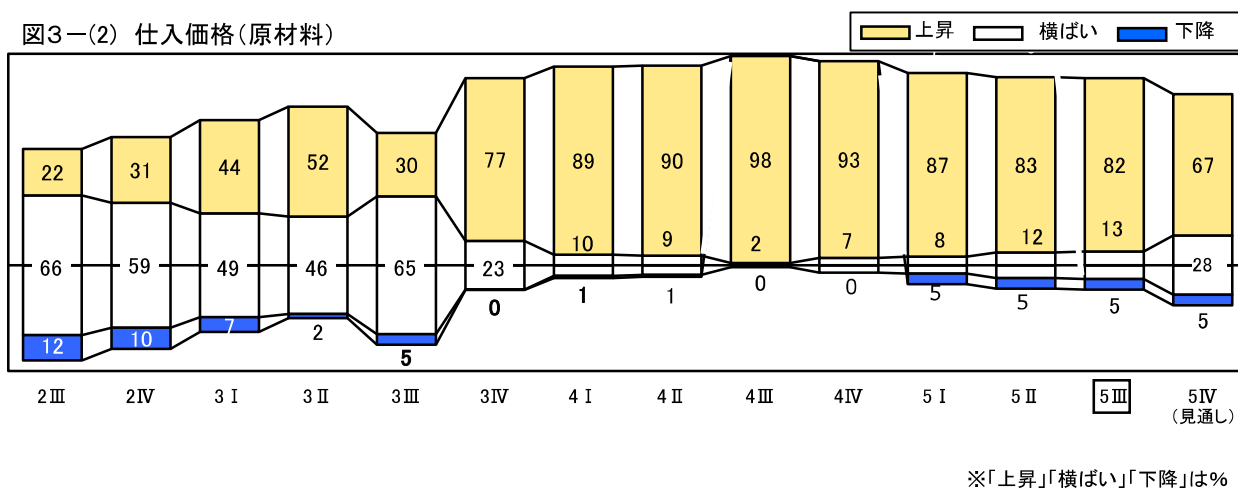
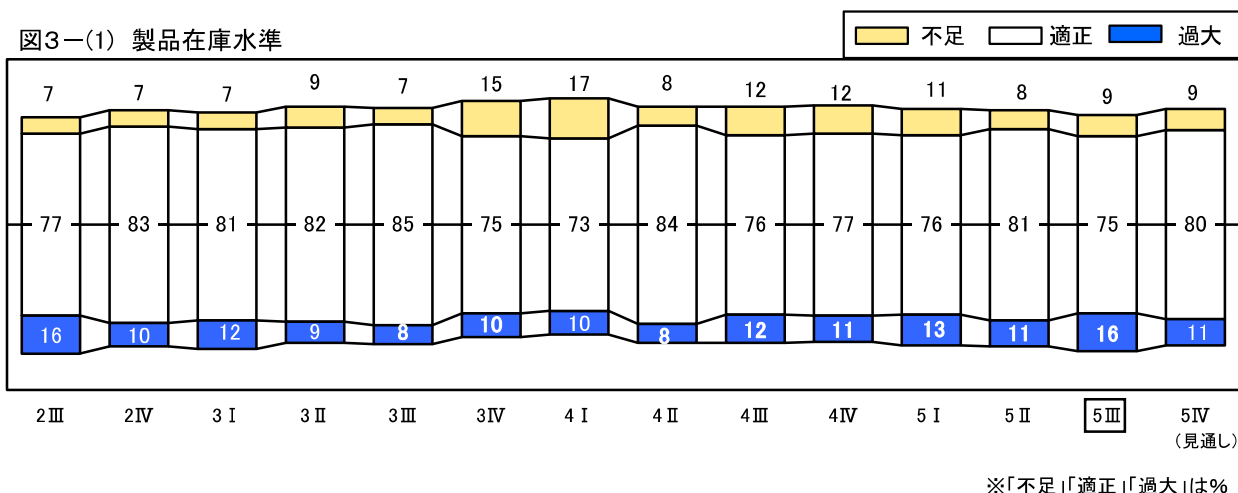
(1) 製造業

今期の実績

- ・製品在庫水準は、「適正」が75%と最も多い。
- ・仕入価格は、「上昇」が82%となり、前期より1ポイント縮小したが、高水準が続いている。
- ・製品価格は、「上昇」が59%となり、前期より8ポイント縮小したが、高水準が続いている。

来期の見通し

- ・仕入価格は「上昇」が15ポイント縮小する見込み。
- ・製品価格は「上昇」が14ポイント縮小する見込み。



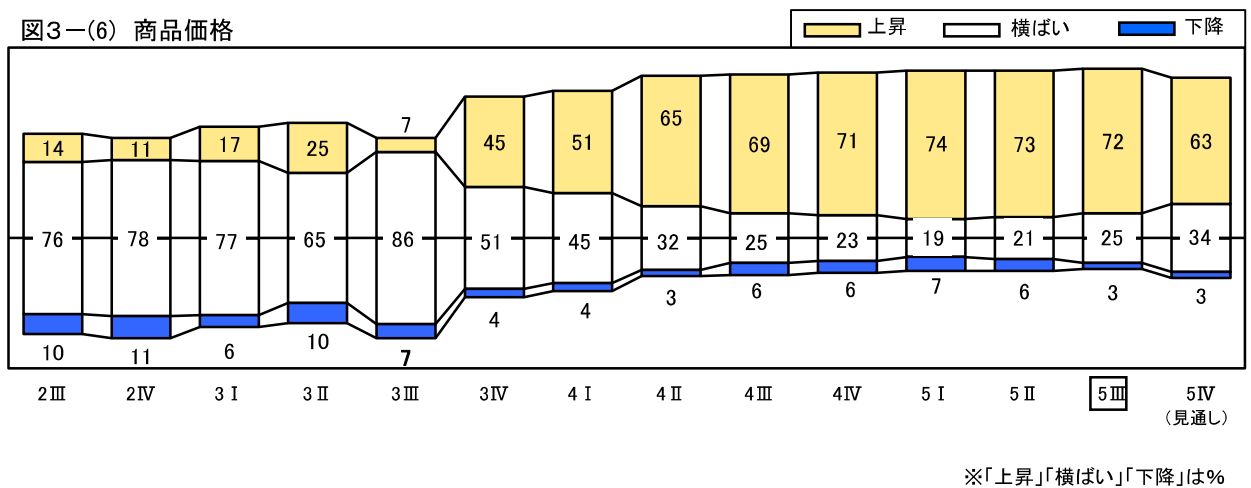
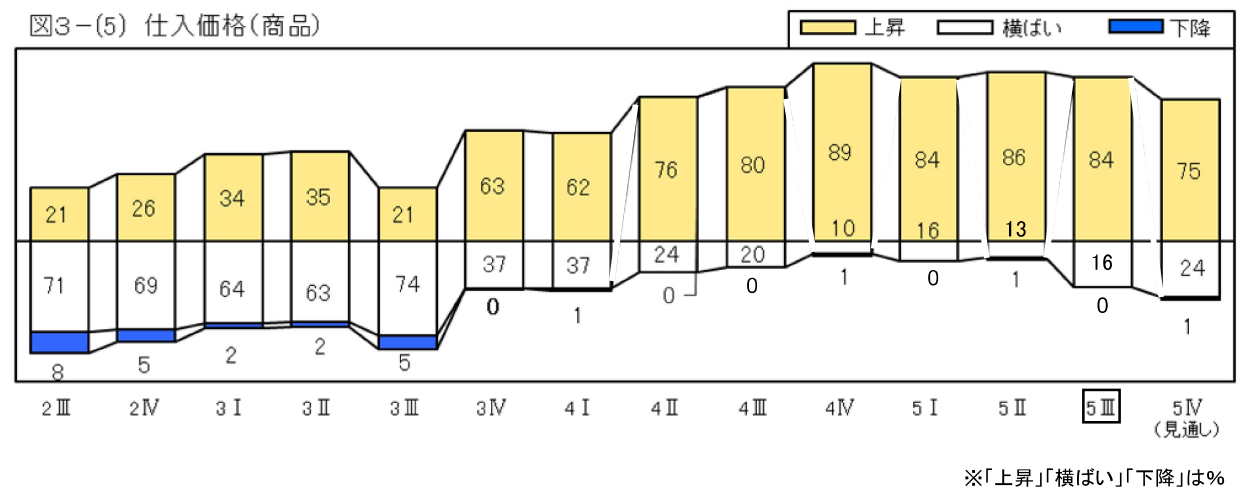
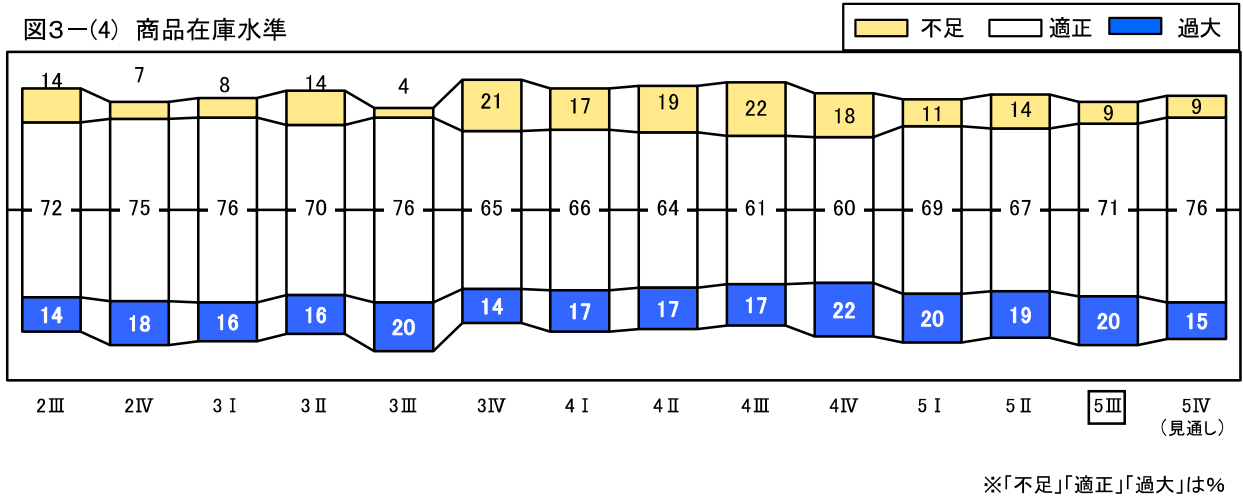
(2) 卸売・小売業

今期の実績

- ・商品在庫水準は、「適性」が71%と最も多い。
- ・仕入価格は、「上昇」が84%となり、前期より2ポイント縮小したが、高水準が続いている。
- ・商品価格は、「上昇」が72%となり、前期より1ポイント縮小したが、高水準が続いている。

来期の見通し

- ・仕入価格、商品価格ともに「上昇」が9ポイント縮小する見込み。



4 設備投資の状況

今期の実績

- ・ 「設備投資をした」と回答した企業は34%で、前期から1ポイント上昇。
- ・ 設備投資の目的については、「設備更新」が70%、「合理化・省力化」が28%、「生産・販売能力拡大」が25%の順(複数回答)。

来期の見通し

- ・ 「設備投資をする」と回答した企業は33%で、今期から1ポイント下降。
- ・ 設備投資の目的については、今期同様の傾向。

図4-1(1) 設備投資の状況

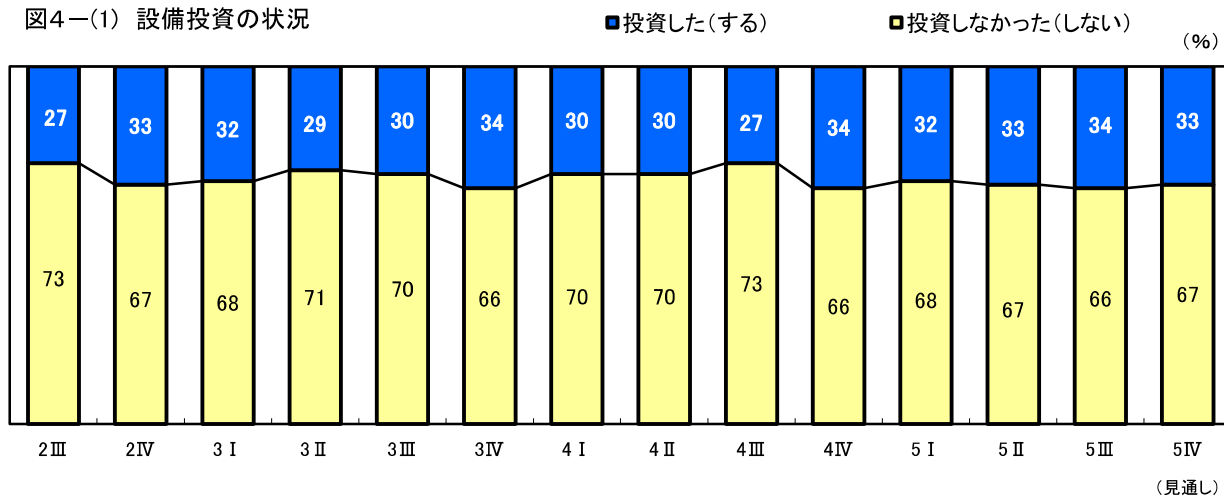


図4-1(2) 設備投資の目的(複数回答)

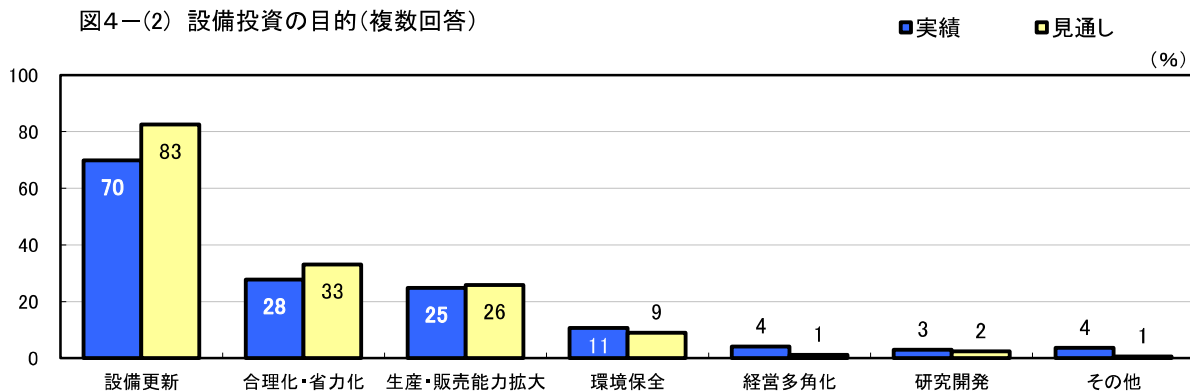


表4-(1) 設備投資の状況(R5年7-9月実績)(業種・資本金・地域別)

(%)

区分	R5年4-6月 設備投資した	R5年7-9月 設備投資した	設備投資の目的(複数回答)						
			設備 更新	合理化 省力化	生産・販 売能 力拡大	環境 保全	経 営 多角化	研究 開発	その他
総 計	33	34	70	28	25	11	4	3	4
札幌市を除く	31	31	71	29	24	13	2	3	3
札幌市	42	43	66	26	28	6	10	2	4
業 種									
建設業	33	26	78	26	4	4	0	4	9
製造業	43	45	55	41	41	14	5	7	5
卸売・小売業	25	33	81	28	19	19	6	0	0
運輸業	42	42	78	13	6	9	0	0	6
サービス業	29	26	66	26	39	5	8	3	0
資 本 金									
5千万円未満	30	28	67	30	27	11	7	1	3
5千万円以上～1億円未満	28	34	71	15	21	9	3	0	3
1億円以上	60	59	75	34	23	11	0	9	5
地 域									
道南	17	30	67	28	17	11	6	6	6
道央	39	36	71	29	23	6	6	4	4
札幌市を除く	35	27	78	37	15	7	0	7	4
札幌市	42	43	66	26	28	6	10	2	4
道北	28	32	88	12	24	12	0	0	0
オホーツク	37	37	60	33	40	20	0	0	0
十勝	38	33	65	35	24	24	0	6	6
釧路・根室	27	30	56	31	31	6	6	0	6

表4-(1) 設備投資の状況(R5年10-12月見通し)(業種・資本金・地域別)

(%)

区分	R5年10-12月 設備投資する	設備投資の目的(複数回答)						
		設備 更新	合理化 省力化	生産・販 売能 力拡大	環境 保全	研究 開発	経 営 多角化	その他
総 計	33	83	33	26	9	2	1	1
札幌市を除く	30	83	34	20	12	1	2	1
札幌市	43	82	31	41	2	6	0	0
業 種								
建設業	29	76	32	8	0	0	0	0
製造業	39	71	45	32	5	5	3	3
卸売・小売業	29	96	32	29	25	0	0	0
運輸業	42	94	13	9	6	0	0	0
サービス業	29	79	40	42	9	5	2	0
資 本 金								
5千万円未満	26	82	38	29	8	2	2	0
5千万円以上～1億円未満	32	78	31	19	13	3	0	0
1億円以上	64	87	26	26	9	2	0	2
地 域								
道南	25	80	53	7	0	0	0	0
道央	37	83	33	31	9	5	0	1
札幌市を除く	31	84	35	16	19	3	0	3
札幌市	43	82	31	41	2	6	0	0
道北	35	89	18	21	11	0	0	0
オホーツク	22	78	44	22	11	0	11	0
十勝	35	89	33	28	17	0	0	0
釧路・根室	30	69	38	25	6	0	6	0

5 地域別にみる各産業の動向

(1) 道南

今期の業況感BSIは 1(前期から24ポイント上昇)

- ・ 業種別にみると、卸売・小売業、運輸業、サービス業はプラスに転換、製造業は横ばい、建設業はマイナス幅が縮小。

来期の業況感BSIは △3(今期から4ポイント下降)

図5-1) 地域別BSIの推移【道南】

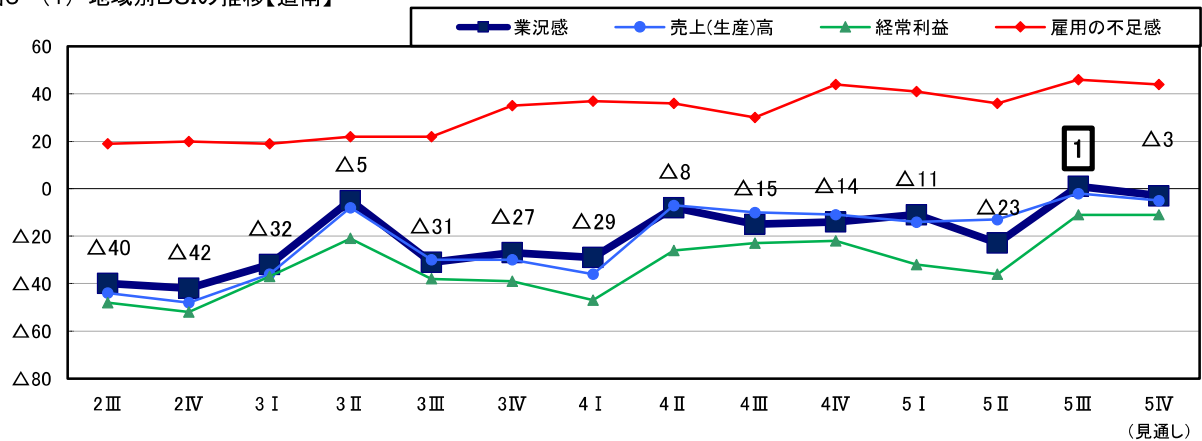


表5-1) 地域別BSI【道南】

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績						R5年10-12月見通し					
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅		
業況感	全産業	△ 23	19	63	18	1	24	15	67	18	△ 3	△ 4	
	建設業	△ 29	22	56	22	0	29	11	78	11	0	0	
	製造業	△ 33	7	53	40	△ 33	0	7	53	40	△ 33	0	
	卸売・小売業	△ 38	14	79	7	7	45	7	79	14	△ 7	△ 14	
	運輸業	0	43	57	0	43	43	43	57	0	43	0	
	サービス業	△ 11	24	64	12	12	23	18	70	12	6	△ 6	
売上 (生産)高	全産業	△ 13	29	40	31	△ 2	11	21	53	26	△ 5	△ 3	
	建設業	△ 29	22	56	22	0	29	0	78	22	△ 22	△ 22	
	製造業	△ 33	20	27	53	△ 33	0	13	47	40	△ 27	6	
	卸売・小売業	△ 7	21	43	36	△ 15	△ 8	21	58	21	0	15	
	運輸業	0	57	29	14	43	43	57	29	14	43	0	
	サービス業	△ 6	35	47	18	17	23	24	52	24	0	△ 17	
経常利益	全産業	△ 36	23	43	34	△ 11	25	21	47	32	△ 11	0	
	建設業	△ 57	0	78	22	△ 22	35	0	78	22	△ 22	0	
	製造業	△ 67	13	27	60	△ 47	20	7	46	47	△ 40	7	
	卸売・小売業	△ 47	14	43	43	△ 29	18	21	29	50	△ 29	0	
	運輸業	0	57	29	14	43	43	57	29	14	43	0	
	サービス業	△ 17	35	47	18	17	34	29	53	18	11	△ 6	
雇用者の 不足感	全産業	36	52	42	6	46	10	52	40	8	44	△ 2	
	建設業	43	78	22	0	78	35	89	11	0	89	11	
	製造業	22	40	53	7	33	11	40	53	7	33	0	
	卸売・小売業	46	50	43	7	43	△ 3	43	50	7	36	△ 7	
	運輸業	67	71	29	0	71	4	71	29	0	71	0	
	サービス業	23	41	47	12	29	6	41	41	18	23	△ 6	

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(2) 道央

今期の業況感BSIは 5(前期から1ポイント下降)

- ・ 業種別にみると、卸売・小売業はプラス幅が拡大、サービス業はプラス幅が縮小、建設業は横ばい、運輸業はマイナスに転換、製造業はマイナス幅が縮小。

来期の業況感BSIは 8(今期から3ポイント上昇)

図5-(2) 地域別BSIの推移【道央】

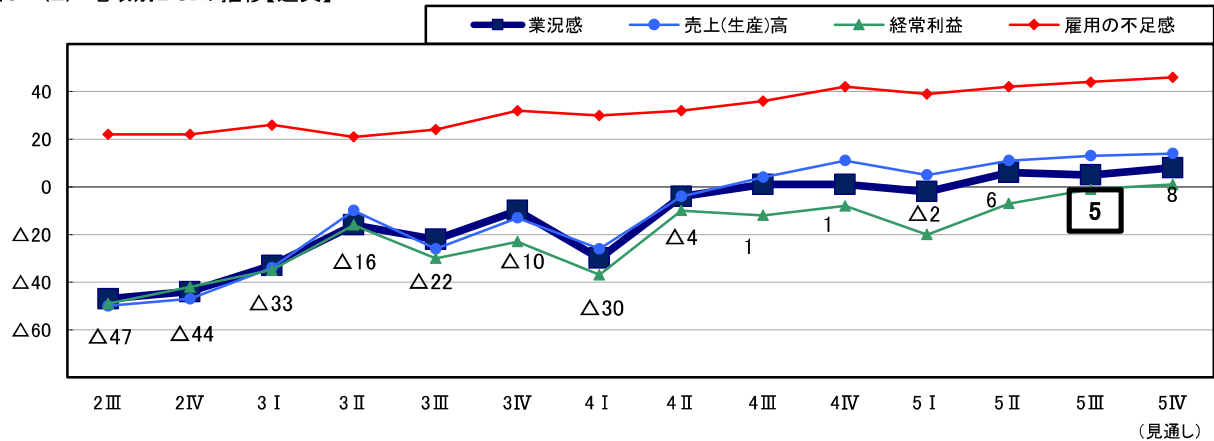


表5-(2) 地域別BSI【道央】

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績						R5年10-12月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	
業況感	全産業	6	22	61	17	5	△ 1	21	66	13	8	3
	建設業	0	8	84	8	0	0	3	91	6	△ 3	△ 3
	製造業	△ 17	16	57	27	△ 11	6	22	62	16	6	17
	卸売・小売業	5	28	54	18	10	5	23	62	15	8	△ 2
	運輸業	10	15	63	22	△ 7	△ 17	15	63	22	△ 7	0
	サービス業	19	31	55	14	17	△ 2	30	61	9	21	4
売上 (生産)高	全産業	11	31	51	18	13	2	25	64	11	14	1
	建設業	6	19	67	14	5	△ 1	8	84	8	0	△ 5
	製造業	△ 3	32	46	22	10	13	32	52	16	16	6
	卸売・小売業	9	38	44	18	20	11	28	67	5	23	3
	運輸業	14	19	59	22	△ 3	△ 17	15	63	22	△ 7	△ 4
	サービス業	19	35	49	16	19	0	32	60	8	24	5
経常利益	全産業	△ 7	24	51	25	△ 1	6	19	63	18	1	2
	建設業	△ 6	11	67	22	△ 11	△ 5	6	77	17	△ 11	0
	製造業	△ 17	24	46	30	△ 6	11	27	51	22	5	11
	卸売・小売業	△ 21	28	44	28	0	21	15	59	26	△ 11	△ 11
	運輸業	△ 6	19	48	33	△ 14	△ 8	11	59	30	△ 19	△ 5
	サービス業	4	29	52	19	10	6	27	64	9	18	8
雇用者の 不足感	全産業	42	47	50	3	44	2	48	50	2	46	2
	建設業	52	61	36	3	58	6	64	33	3	61	3
	製造業	30	32	60	8	24	△ 6	41	54	5	36	12
	卸売・小売業	39	49	48	3	46	7	44	53	3	41	△ 5
	運輸業	45	44	52	4	40	△ 5	44	52	4	40	0
	サービス業	45	47	53	0	47	2	48	52	0	48	1

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(2)－① 道央(札幌市を除く)

今期の業況感BSIは $\Delta 3$ (前期から3ポイント下降)

- ・ 業種別にみると、卸売・小売業はプラス幅が拡大、サービス業はプラス幅が縮小、建設業はマイナスに転換、製造業はマイナス幅が縮小、運輸業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは 0(今期から3ポイント上昇)

図5-(2)-① 地域別BSIの推移【道央(札幌市を除く)】

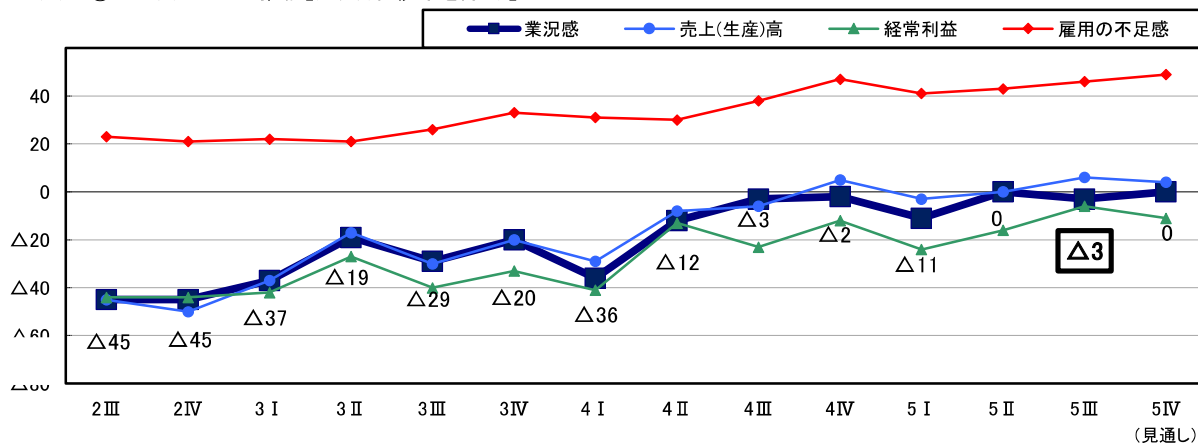


表5-(2)-① 地域別BSI【道央(札幌市を除く)】

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績						R5年10-12月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	
業況感	全産業	0	17	63	20	$\Delta 3$	$\Delta 3$	16	68	16	0	3
	建設業	0	6	81	13	$\Delta 7$	$\Delta 7$	0	94	6	$\Delta 6$	1
	製造業	$\Delta 38$	9	48	43	$\Delta 34$	4	17	57	26	$\Delta 9$	25
	卸売・小売業	15	32	63	5	27	12	26	74	0	26	$\Delta 1$
	運輸業	$\Delta 7$	7	72	21	$\Delta 14$	$\Delta 7$	7	57	36	$\Delta 29$	$\Delta 15$
	サービス業	18	26	59	15	11	$\Delta 7$	22	63	15	7	$\Delta 4$
売上 (生産)高	全産業	0	24	58	18	6	6	21	62	17	4	$\Delta 2$
	建設業	0	13	81	6	7	7	6	75	19	$\Delta 13$	$\Delta 20$
	製造業	$\Delta 29$	17	48	35	$\Delta 18$	11	22	52	26	$\Delta 4$	14
	卸売・小売業	30	47	42	11	36	6	32	68	0	32	$\Delta 4$
	運輸業	$\Delta 19$	7	72	21	$\Delta 14$	5	7	57	36	$\Delta 29$	$\Delta 15$
	サービス業	9	30	55	15	15	6	30	59	11	19	4
経常利益	全産業	$\Delta 16$	20	54	26	$\Delta 6$	10	13	63	24	$\Delta 11$	$\Delta 5$
	建設業	$\Delta 9$	13	68	19	$\Delta 6$	3	0	69	31	$\Delta 31$	$\Delta 25$
	製造業	$\Delta 28$	17	44	39	$\Delta 22$	6	22	56	22	0	22
	卸売・小売業	$\Delta 10$	37	42	21	16	26	16	63	21	$\Delta 5$	$\Delta 21$
	運輸業	$\Delta 38$	14	43	43	$\Delta 29$	9	0	50	50	$\Delta 50$	$\Delta 21$
	サービス業	$\Delta 6$	19	66	15	4	10	19	70	11	8	4
雇用者の 不足感	全産業	43	49	48	3	46	3	51	47	2	49	3
	建設業	50	69	31	0	69	19	75	25	0	75	6
	製造業	28	26	61	13	13	$\Delta 15$	39	52	9	30	17
	卸売・小売業	40	47	53	0	47	7	37	63	0	37	$\Delta 10$
	運輸業	44	57	43	0	57	13	57	43	0	57	0
	サービス業	52	56	44	0	56	4	52	48	0	52	$\Delta 4$

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(2)－② 道央(札幌市)

今期の業況感BSIは 10(前期から1ポイント下降)

- ・ 業種別にみると、建設業はプラスに転換、製造業はプラス幅が拡大、サービス業はプラス幅が縮小、運輸業はマイナスに転換、卸売・小売業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは 14(今期から4ポイント上昇)

図5－(2)－② 地域別BSIの推移【道央(札幌市)】

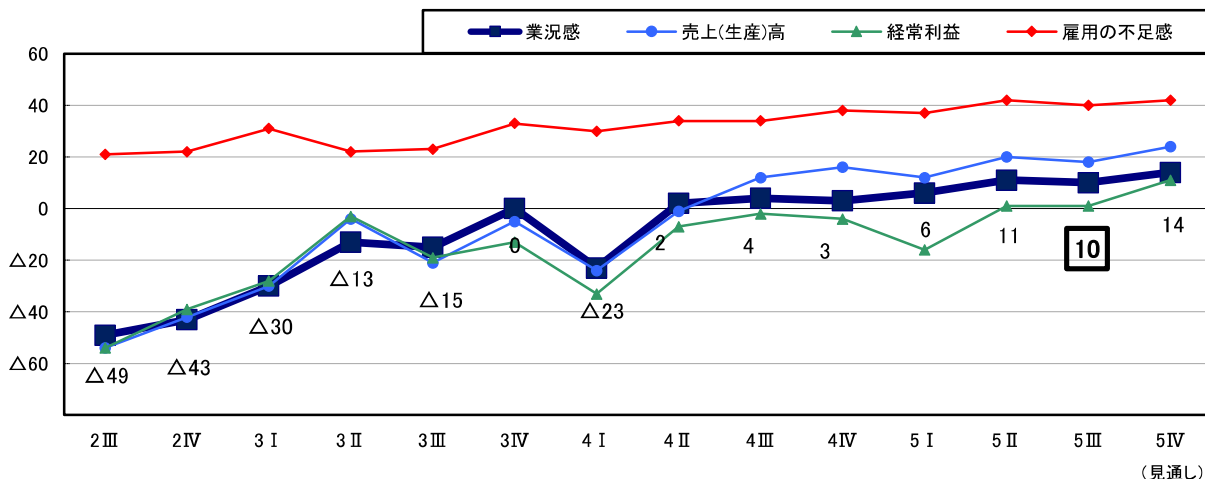


表5－(2)－② 地域別BSI【道央(札幌市)】

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績						R5年10-12月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	
業況感	全産業	11	25	60	15	10	△ 1	24	66	10	14	4
	建設業	0	10	85	5	5	5	5	90	5	0	△ 5
	製造業	14	29	71	0	29	15	29	71	0	29	0
	卸売・小売業	△ 4	25	45	30	△ 5	△ 1	20	50	30	△ 10	△ 5
	運輸業	31	17	58	25	△ 8	△ 39	25	67	8	17	25
	サービス業	20	33	53	14	19	△ 1	33	61	6	27	8
売上 (生産)高	全産業	20	35	48	17	18	△ 2	29	66	5	24	6
	建設業	10	25	55	20	5	△ 5	10	90	0	10	5
	製造業	33	57	43	0	57	24	50	50	0	50	△ 7
	卸売・小売業	△ 8	30	45	25	5	13	25	65	10	15	10
	運輸業	54	25	50	25	0	△ 54	25	67	8	17	17
	サービス業	26	37	47	16	21	△ 5	33	61	6	27	6
経常利益	全産業	1	25	51	24	1	0	24	63	13	11	10
	建設業	△ 5	10	65	25	△ 15	△ 10	10	85	5	5	20
	製造業	0	36	50	14	22	22	36	43	21	15	△ 7
	卸売・小売業	△ 29	20	45	35	△ 15	14	15	55	30	△ 15	0
	運輸業	31	17	58	25	△ 8	△ 39	25	67	8	17	25
	サービス業	11	33	45	22	11	0	31	61	8	23	12
雇用者の 不足感	全産業	42	43	54	3	40	△ 2	45	52	3	42	2
	建設業	53	55	40	5	50	△ 3	55	40	5	50	0
	製造業	33	43	57	0	43	10	43	57	0	43	0
	卸売・小売業	38	50	45	5	45	7	50	45	5	45	0
	運輸業	47	25	67	8	17	△ 30	25	67	8	17	0
	サービス業	42	41	59	0	41	△ 1	45	55	0	45	4

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(3) 道北

今期の業況感BSIは △6(前期から4ポイント下降)

- ・ 業種別にみると、運輸業はプラス幅が縮小、建設業、サービス業は横ばい、卸売・小売業はマイナス幅が縮小、製造業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは △18(今期から12ポイント下降)

図5-(3) 地域別BSIの推移【道北】

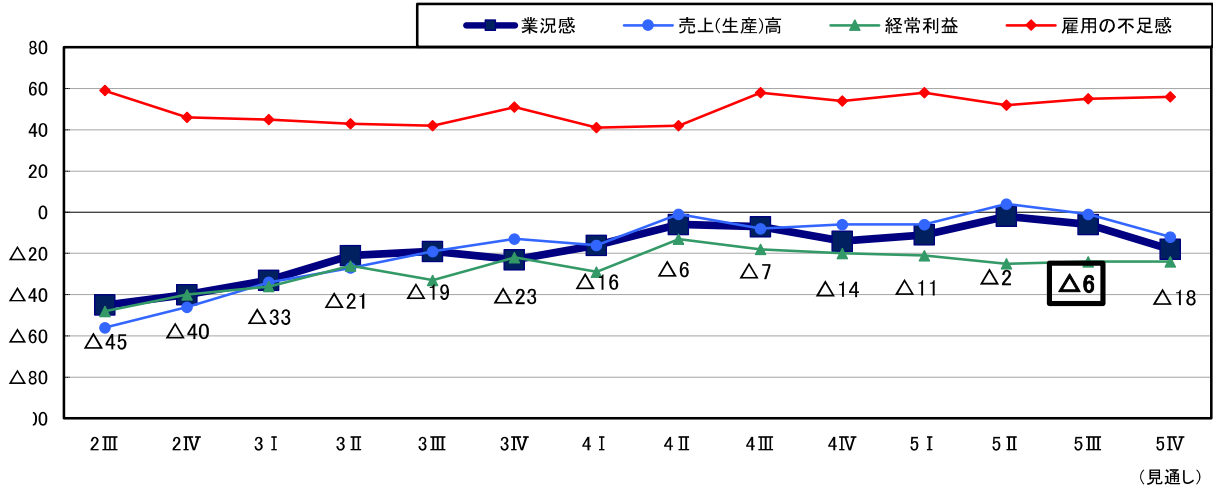


表5-(2)-② 地域別BSI【道北】

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績						R5年10-12月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	
業況感	全産業	△ 2	18	58	24	△ 6	△ 4	9	64	27	△ 18	△ 12
	建設業	△ 7	7	79	14	△ 7	0	0	79	21	△ 21	△ 14
	製造業	△ 11	12	53	35	△ 23	△ 12	12	53	35	△ 23	0
	卸売・小売業	△ 8	31	31	38	△ 7	1	13	49	38	△ 25	△ 18
	運輸業	9	18	64	18	0	△ 9	9	82	9	0	0
	サービス業	5	19	67	14	5	0	10	65	25	△ 15	△ 20
売上 (生産)高	全産業	4	27	45	28	△ 1	△ 5	15	58	27	△ 12	△ 11
	建設業	15	7	64	29	△ 22	△ 37	7	43	50	△ 43	△ 21
	製造業	△ 5	24	41	35	△ 11	△ 6	18	53	29	△ 11	0
	卸売・小売業	0	44	18	38	6	6	13	56	31	△ 18	△ 24
	運輸業	0	27	37	36	△ 9	△ 9	18	64	18	0	9
	サービス業	10	29	61	10	19	9	20	70	10	10	△ 9
経常利益	全産業	△ 25	18	40	42	△ 24	1	14	48	38	△ 24	0
	建設業	△ 43	7	57	36	△ 29	14	7	36	57	△ 50	△ 21
	製造業	△ 27	12	53	35	△ 23	4	18	58	24	△ 6	17
	卸売・小売業	△ 25	25	31	44	△ 19	6	13	43	44	△ 31	△ 12
	運輸業	△ 37	18	27	55	△ 37	0	9	64	27	△ 18	19
	サービス業	△ 5	24	33	43	△ 19	△ 14	20	40	40	△ 20	△ 1
雇用者の 不足感	全産業	52	56	43	1	55	3	56	44	0	56	1
	建設業	71	71	29	0	71	0	79	21	0	79	8
	製造業	61	71	23	6	65	4	65	35	0	65	0
	卸売・小売業	33	50	50	0	50	17	50	50	0	50	0
	運輸業	45	45	55	0	45	0	55	45	0	55	10
	サービス業	45	45	55	0	45	0	40	60	0	40	△ 5

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(4) オホーツク

今期の業況感BSIは △7(前期から14ポイント上昇)

- ・ 業種別にみると、サービス業はプラスに転換、建設業はプラス幅が縮小、運輸業はマイナス幅が縮小、製造業、卸売・小売業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは △4(今期から3ポイント上昇)

図5-(4) 地域別BSIの推移【オホーツク】

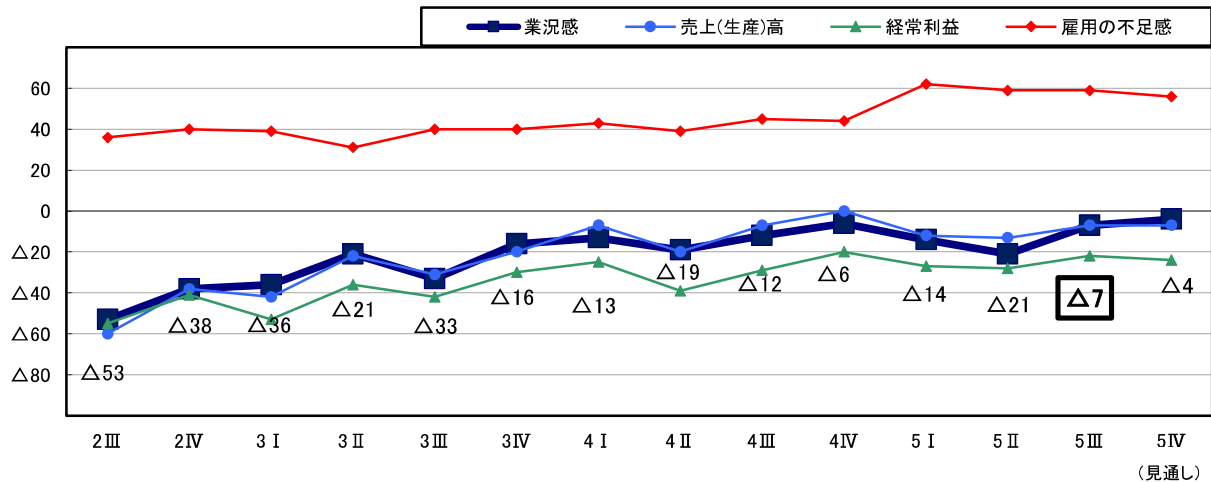


表5-(4) 地域別BSI(オホーツク)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績						R5年10-12月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	
業況感	全産業	△ 21	17	59	24	△ 7	14	20	56	24	△ 4	3
	建設業	11	13	74	13	0	△ 11	13	74	13	0	0
	製造業	△ 27	0	33	67	△ 67	△ 40	0	33	67	△ 67	0
	卸売・小売業	△ 29	17	33	50	△ 33	△ 4	33	34	33	0	33
	運輸業	△ 44	20	60	20	0	44	30	60	10	20	20
	サービス業	△ 20	27	73	0	27	47	18	64	18	0	△ 27
売上 (生産)高	全産業	△ 13	17	59	24	△ 7	6	20	53	27	△ 7	0
	建設業	22	13	62	25	△ 12	△ 34	0	62	38	△ 38	△ 26
	製造業	△ 27	0	33	67	△ 67	△ 40	0	33	67	△ 67	0
	卸売・小売業	△ 14	17	50	33	△ 16	△ 2	33	50	17	16	32
	運輸業	△ 22	20	60	20	0	22	40	50	10	30	30
	サービス業	△ 20	27	73	0	27	47	18	64	18	0	△ 27
経常利益	全産業	△ 28	15	48	37	△ 22	6	15	46	39	△ 24	△ 2
	建設業	△ 11	13	49	38	△ 25	△ 14	0	50	50	△ 50	△ 25
	製造業	△ 36	0	33	67	△ 67	△ 31	0	33	67	△ 67	0
	卸売・小売業	△ 29	17	16	67	△ 50	△ 21	33	17	50	△ 17	33
	運輸業	△ 45	10	50	40	△ 30	15	20	50	30	△ 10	20
	サービス業	△ 20	27	73	0	27	47	18	64	18	0	△ 27
雇用者の 不足感	全産業	59	59	41	0	59	0	56	44	0	56	△ 3
	建設業	89	100	0	0	100	11	100	0	0	100	0
	製造業	73	67	33	0	67	△ 6	67	33	0	67	0
	卸売・小売業	29	33	67	0	33	4	50	50	0	50	17
	運輸業	78	50	50	0	50	△ 28	60	40	0	60	10
	サービス業	20	45	55	0	45	25	18	82	0	18	△ 27

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(5) 十勝

今期の業況感BSIは△2(前期から11ポイント上昇)

- ・ 業種別にみると、建設業、運輸業はプラスに転換、製造業、卸売・小売業はマイナスに転換、サービス業はマイナス幅が縮小。

来期の業況感BSIは△2(今期から横ばい)

図5-(5) 地域別BSIの推移【十勝】

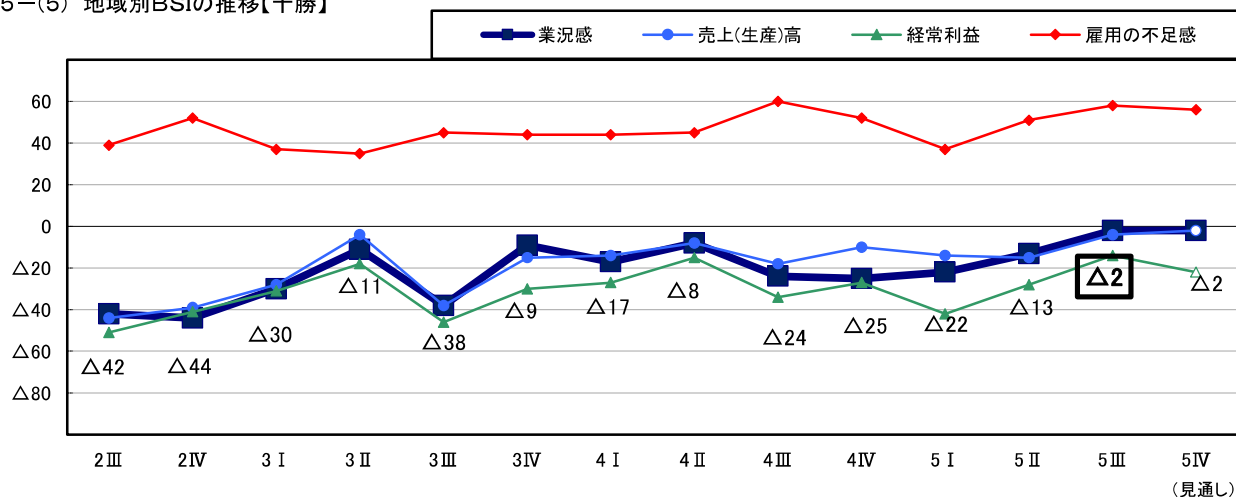


表5-(5) 地域別BSI(十勝)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績						R5年10-12月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	
業況感	全産業	△13	25	48	27	△2	11	19	60	21	△2	0
	建設業	△36	20	70	10	10	46	20	70	10	10	0
	製造業	0	20	30	50	△30	△30	0	60	40	△40	△10
	卸売・小売業	0	25	42	33	△8	△8	17	58	25	△8	0
	運輸業	0	36	55	9	27	27	36	64	0	36	9
	サービス業	△18	22	45	33	△11	7	22	45	33	△11	0
売上 (生産)高	全産業	△15	27	42	31	△4	11	25	48	27	△2	2
	建設業	△27	10	60	30	△20	7	20	60	20	0	20
	製造業	0	30	20	50	△20	△20	20	40	40	△20	0
	卸売・小売業	13	33	42	25	8	△5	25	33	42	△17	△25
	運輸業	△8	36	46	18	18	26	36	55	9	27	9
	サービス業	△36	22	45	33	△11	25	22	56	22	0	11
経常利益	全産業	△28	21	44	35	△14	14	15	48	37	△22	△8
	建設業	△64	10	50	40	△30	34	20	30	50	△30	0
	製造業	0	20	30	50	△30	△30	10	40	50	△40	△10
	卸売・小売業	0	25	50	25	0	0	8	59	33	△25	△25
	運輸業	△25	27	37	36	△9	16	18	55	27	△9	0
	サービス業	△27	22	56	22	0	27	22	56	22	0	0
雇用者の 不足感	全産業	51	58	42	0	58	7	56	44	0	56	△2
	建設業	36	80	20	0	80	44	80	20	0	80	0
	製造業	20	30	70	0	30	10	50	50	0	50	20
	卸売・小売業	50	58	42	0	58	8	50	50	0	50	△8
	運輸業	67	82	18	0	82	15	73	27	0	73	△9
	サービス業	64	33	67	0	33	△31	22	78	0	22	△11

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

(6) 釧路・根室

今期の業況感BSIは △15(前期から3ポイント下降)

- ・ 業種別にみると、運輸業はプラス幅が縮小、卸売・小売業、サービス業はマイナス幅が縮小、建設業、製造業はマイナス幅が拡大。

来期の業況感BSIは △13(今期から2ポイント上昇)

図5-(6) 地域別BSIの推移【釧路・根室】

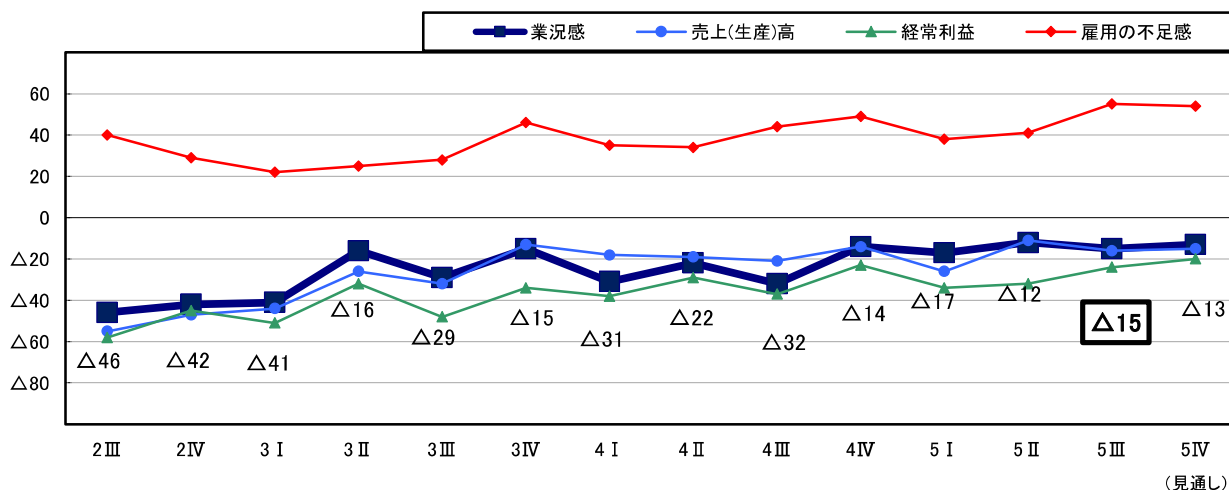


表5-(6) 地域別BSI(釧路・根室)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績						R5年10-12月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	
業況感	全産業	△ 12	7	71	22	△ 15	△ 3	13	61	26	△ 13	2
	建設業	△ 20	0	70	30	△ 30	△ 10	0	70	30	△ 30	0
	製造業	△ 20	8	59	33	△ 25	△ 5	17	41	42	△ 25	0
	卸売・小売業	△ 25	0	89	11	△ 11	14	11	56	33	△ 22	△ 11
	運輸業	10	18	64	18	0	△ 10	18	64	18	0	0
	サービス業	△ 10	8	75	17	△ 9	1	17	75	8	9	18
売上 (生産)高	全産業	△ 11	19	46	35	△ 16	△ 5	15	55	30	△ 15	1
	建設業	△ 40	0	60	40	△ 40	0	0	70	30	△ 30	10
	製造業	10	33	34	33	0	△ 10	17	50	33	△ 16	△ 16
	卸売・小売業	△ 25	22	56	22	0	25	22	45	33	△ 11	△ 11
	運輸業	20	18	46	36	△ 18	△ 38	18	46	36	△ 18	0
	サービス業	△ 30	17	41	42	△ 25	5	17	66	17	0	25
経常利益	全産業	△ 32	11	54	35	△ 24	8	13	54	33	△ 20	4
	建設業	△ 50	0	70	30	△ 30	20	0	70	30	△ 30	0
	製造業	△ 30	17	33	50	△ 33	△ 3	25	42	33	△ 8	25
	卸売・小売業	△ 25	11	45	44	△ 33	△ 8	11	45	44	△ 33	0
	運輸業	△ 20	18	55	27	△ 9	11	18	37	45	△ 27	△ 18
	サービス業	△ 30	8	67	25	△ 17	13	8	75	17	△ 9	8
雇用者の 不足感	全産業	41	57	41	2	55	14	56	42	2	54	△ 1
	建設業	50	70	30	0	70	20	70	30	0	70	0
	製造業	50	50	50	0	50	0	42	58	0	42	△ 8
	卸売・小売業	25	44	45	11	33	8	56	33	11	45	12
	運輸業	50	73	27	0	73	23	73	27	0	73	0
	サービス業	20	50	50	0	50	30	42	58	0	42	△ 8

※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

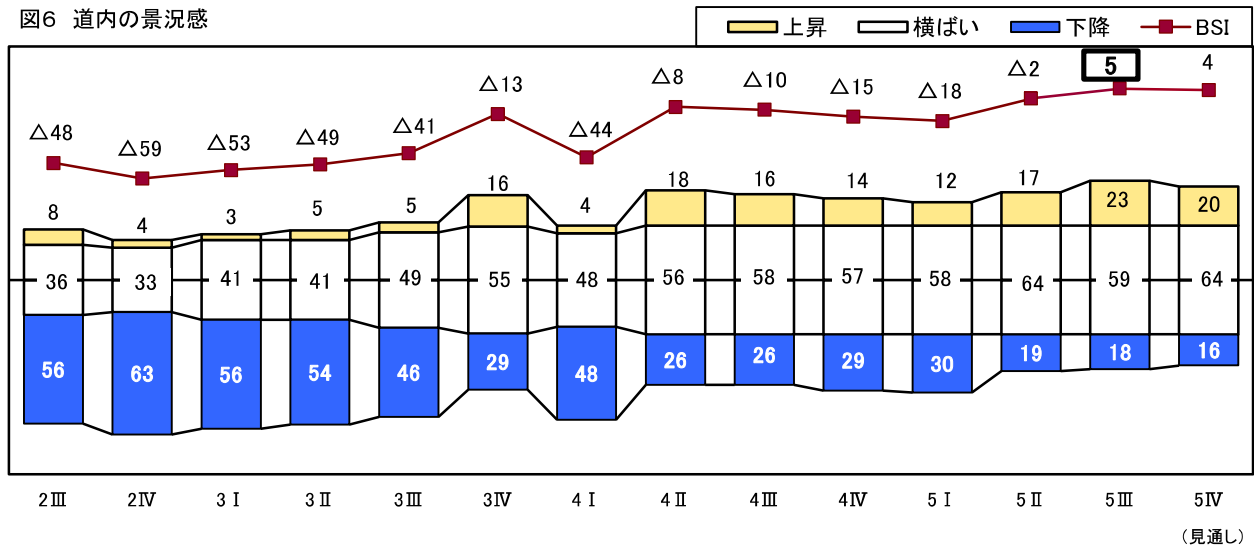
6 道内の景況感

今期の道内の景況感BSIは5(前期から7ポイント上昇)

- ・ 業種別で見ると、運輸業はプラスに転換、建設業、サービス業はプラス幅が拡大、卸売・小売業はマイナス幅が縮小、製造業はマイナス幅が拡大。
- ・ 地域別で見ると、道南、釧路・根室はプラスに転換、道央はプラス幅が拡大、道北はプラス幅が縮小、オホーツク、十勝はマイナス幅が縮小。

来期の道内の景況感BSIは 4(今期から1ポイント下降)

図6 道内の景況感



※「上昇」「横ばい」「下降」は%、BSIはポイント(「上昇」-「下降」)

表6 道内の景況感(業種・資本金・地域別)

区分	R5年 4-6月 実績	R5年7-9月実績					R5年10-12月見通し				
		上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅	上昇	横ばい	下降	BSI	変化幅
総計	△ 2	23	59	18	5	7	20	64	16	4	△ 1
札幌市を除く	△ 8	20	59	21	△ 1	7	17	66	17	0	1
札幌市	12	31	59	10	21	9	27	63	10	17	△ 4
業種											
建設業	1	20	67	13	7	6	18	69	13	5	△ 2
製造業	△ 5	20	53	27	△ 7	△ 2	20	57	23	△ 3	4
卸売・小売業	△ 15	22	53	25	△ 3	12	17	65	18	△ 1	2
運輸業	△ 8	22	57	21	1	9	22	66	12	10	9
サービス業	6	27	63	10	17	11	21	65	14	7	△ 10
資本金											
5千万円未満	△ 7	19	58	23	△ 4	3	17	62	21	△ 4	0
5千万円以上~1億円未満	1	29	60	11	18	17	27	66	7	20	2
1億円以上	12	31	62	7	24	12	23	72	5	18	△ 6
地域											
道南	△ 7	19	65	16	3	10	18	66	16	2	△ 1
道央	6	27	58	15	12	6	24	64	12	12	0
札幌市を除く	△ 2	22	57	21	1	3	19	66	15	4	3
札幌市	12	31	59	10	21	9	27	63	10	17	△ 4
道北	4	23	55	22	1	△ 3	18	60	22	△ 4	△ 5
オホーツク	△ 20	15	61	24	△ 9	11	15	68	17	△ 2	7
十勝	△ 19	21	50	29	△ 8	11	15	62	23	△ 8	0
釧路・根室	△ 16	15	72	13	2	18	17	70	13	4	2

7 業種・地域別企業経営者の声(令和5年7-9月)

【建設業】

道南	<ul style="list-style-type: none"> 採用に関して、様々な手法を試しているが、建設業を志望する求職者が少なく苦戦しているため、若手の現場で働く正社員の確保が今後の課題。(建設業)
道央	<ul style="list-style-type: none"> 原油価格の高騰により、輸送費が約 10%増加。利幅確保のため、高騰分の費用をそのまま価格転嫁しているが取引件数に影響し売上げが減少している。加えて、物価高騰の影響で原材料(主に鉄筋)の仕入れ先が倒産し、現在は複数の事業者から原材料を仕入れている。そのため物価高騰前と比較して仕入れ値が 5%上がったが、原材料の仕入れ価格上昇分を価格転嫁できず利益が減少している。(建設業) 地価も上昇しており、サラリーマンでは新築戸建て住宅を購入することが難しくなっており、建設業者は中古物件販売やリフォーム分野へシフトしていると聞いている。(商工会議所) 総合建設では受注量は横ばい。原材料高騰の高止まりは今後もしばらく続く見込みのため、受注は確保しても利益を圧迫している。また、人的な要素(現場監督等の確保等)があり、受注でき得るのは大手ばかりで、下請け・孫請けにその恩恵は皆無。人手不足はかなり深刻。(建設業) 木材の価格高騰は若干落ち着きを見せているものの、エネルギー価格高騰により利幅が減っている。(建設業)
道北	<ul style="list-style-type: none"> 道路舗装工事は、年々、公共工事の発注が減ってきていることや、原料等の高騰により利益が減少しているため、道内の道路舗装工事業者は年々減ってきている。自前で材料も造っている会社となると更に少なくなっている状況。昨年は平年と比べて公共工事の発注が極端に少なく、原油価格が高止まりしており重油価格が高騰しているほか、石粉、砕石など原料価格が軒並み値上がりしているが、公共工事の設計単価に反映し切れていない。(建設業) 工事の受注は戸建てを中心に悪化が止まらず、物価は高止まりで価格転嫁も不十分な状況であるため、業績低迷の底が見えない。(設備工事業) 大工不足が最大の経営課題であり、新卒の若手を計画的に確保するためにも賃金アップは欠かせず、WLBを考慮した働き方の改善も並行して行っていく方針である。住宅業界の状況は依然厳しいままであり、少ない顧客をいかに取り込んでいか、SNSを有効活用するなど、顧客獲得戦略を立て直す必要がある。(建設業) 採用が困難な状況で、20代~30代といった若手層が不足しており、新規採用職員を育てる体制が不十分であるほか、技術が伝承できずに技術者の不足を招き、結果として、今いる職員の労働時間の増加等を招いている。(設備工事業)
オホーツク	<ul style="list-style-type: none"> 重機の燃料など、軒並みコスト増となっており、ある程度価格転嫁しているが追いついていない。また、公共事業を受けるために、環境基準をクリアした重機の整備が必要となるが、従来の重機と比べ高額になっている。(建設業) 公共工事の状況に変化はないと思うが、民間工事の動きが悪く、骨材の売上が弱まっている状況。例年、盆明けからの発注が増えてくる傾向にあり、今年も例年どおりの発注は見込めている。除雪作業にかかる売上は降雪量次第のため、現時点では不透明である。(建設業) 人の募集を行うにあたり、重機やトラックに乗るための免許を持っている者を優先的に確保したいが、今の若者は事前に免許を持っている者はいないので、すぐに採用に踏み切れないでいる。(建設業)
十勝	<ul style="list-style-type: none"> ここ 2-3 年札幌中心部で高層ビルが次々と建設されており、まず基礎工事を行う杭打ち工と型枠工、続いて組み立てに携わる鉄筋工、溶接工、その後、配電工、内装と、ビルの工期に従って、どんどん引き抜かれてきている。(商工団体)

【製造業】

道南	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁獲量の減少から原魚確保は厳しいが、小規模ながら平年並の稼働が続いており、売上高は横這いで推移した。(食料品製造業) ・ 原木の仕入価格上昇は落ち着いているが、住宅建築部材の価格上昇により、新築住宅着工数が伸び悩みとなり、建築材の出荷数量も減少し、売上高はやや減少から減少へ推移した。(木材・木製品製造業) ・ 菓子製造に卵が必要でずっとスーパーで仕入れていたので、卵不足・価格高騰は打撃が大きかった。(食料品製造業)
道央	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原材料となる食肉については道産が1割(ギフト用)で、大半は欧米産だが、原材料価格は多少は値上がりしており、値上がり分について一部しか価格転嫁できていない。またコロナ禍の影響については、ロックダウンの一時期のみ売上が急増したが、3年間を通してでは需要の下押し圧力となった。(食料品製造業) ・ 商社を通じて中国へ輸出していたが、日本産水産物の禁輸による影響を受け、今後、商品在庫保管のための経費が掛かってくることを懸念。昆布加工は、中国の禁輸による影響はなく順調に売上を確保。(食料品製造業)
道北	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電気料金・灯油などエネルギー関連のコスト上昇、最低賃金の底上げによる人件費の上昇、仕入価格の上昇など、経費が軒並み上昇しており、価格に転嫁しているが、買い控えの広がりもあり、販売数が伸び悩んでいる。(木材・木製品製造業) ・ 原材料の鋼材は道内で調達している。昨年4月以降、ロシア・ウクライナ情勢の影響による油の価格高騰を受け、仕入れ価格が大幅に上がっているが、その分は製品価格に転嫁できている。電気代は以前より3割ぐらい上がっており、これ以上高くなると困る。(製造業) ・ 現在、従業員の約2割がベトナムなどの技能実習生だが、円安が進むと自国への送金額は実質的に減ってしまうため、日本に来る実習生も減っていくと考える。技能実習制度が変わり実習生の転籍が可能となると、地方の水産加工会社は選ばれなくなる。(食料品製造業)
オホーツク	<ul style="list-style-type: none"> ・ ALPS処理水の放出で、加工業者はどれも大変な状況になっている。中国の決定前に発送した加工品なども戻ってきており、倉庫の容量は厳しい状況。流通や包装関係の事業者にも影響が出ている。(食料品製造業) ・ 従業員は地元雇用が多いが、R5は外国人実習生のみ受入となり、ここ5年間は地元からの応募がなく、新規採用はない状況。(食料品製造業) ・ 若年者の採用が難しく、離職率も高いため人材の確保に苦慮している。R5は新卒採用がゼロであり、R3、R4の新卒採用者は1年未満で辞めてしまった。経験のある中途採用も積極的に受け入れているものの、定年で徐々に数が減少しているため、抜けた穴は実習生でまかなっている状況。さらに、実習生を受け入れるにあたり、住居の確保にも苦慮している。(食料品製造業)
十勝	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点で飼料高騰による影響は受けていないが、主な取引先は畜産農家であるため今後は影響が出るかもしれないと危惧している。(製造業)
釧路・根室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 珍味の製造、販売はお盆とお正月が需要のピークであり、お盆シーズンのために生産ラインをフル稼働している。コロナ禍になって宅飲みの習慣ができたことで、かえって需要が増え、業績が伸びた。(食料品製造業) ・ 観光客の数も戻ってきており、市役所などからカニの販売を行っている事業者の情報を得ている方が買いに来ることも多い。国産のカニはなかなか品薄で入ってきていない。ロシアとの国境の関係もあり、よく獲れる海域に船が近づけない状況と聞く。(食料品製造業) ・ ハローワークに募集を出しているが、なかなか申し込みが来ず、売り上げは伸びているが人手が足りないため、事業の拡大ができていない。技能実習生を呼ぶにも生活環境を整えたりなどの対応が難しいため、呼ぶこともできていない。(食料品製造業)

【卸売・小売業】

道南	<ul style="list-style-type: none"> 売上は前年比2割増だが、商品を約2割値上げしたためであり、コロナ前の水準と同程度である。(食料品小売業) 仕入価格高騰の影響が大きい、価格に転嫁できている。しかし送料も7月から2割上昇。(食料品小売業)
道央	<ul style="list-style-type: none"> 食料品小売業は値上げの影響により大型スーパー等へ顧客流出が顕著で、個人小売店の売上が減少。(食料品小売業) いずれの魚種も漁獲量が減少しているが若干魚価は上がったことから売上は例年並み。市場の取扱は年々減少傾向にあるため、業況は厳しい。(食料品卸売業) 従業員は不足しているが求人を出しても応募がない。早朝からの勤務が敬遠されている。(食料品卸売業) 原材料価格の高騰により、仕入れ価格が上昇し、販売価格も値上がりしている。販売価格を上げると買い手が付かず売れ残る場合もあるため、最低限の仕入れにしている。その結果、売り上げに影響している。また、取扱商品の中には昨年末から今年に掛けて直近で三度も仕入れ価格が上昇した商品もあり、昨年と比較すると約10%以上にもなり、利幅の確保が難しい。(卸売業) 最近の来店数は6月はオオズワイガニの報道により昨年の3倍となった。道外メディアでも報道されるようになり、東北や関東の道外ナンバーの車による来店が多くなった。オオズワイガニに関しては、最初1杯150円で売っていたがメディアで報道され、買い求める人が増えて対応しきれなくなり、徐々に値上げして販売しているが、どれだけ利益になっているのか、まだはつきり分らない。(食料品小売業)
道北	<ul style="list-style-type: none"> 原材料等値上げが落ち着いていることから、商品値上げ分の利益確保ができているが、光熱費・最低賃金の大幅上昇は影響が大きく、今後も注視が必要である。観光関係の需要は順調で、全体の売上を引っ張っている。当面の課題は、人材不足と人件費の高騰で、賃金改善を行わなければ採用ができず、大手を中心とした大幅な賃上げが中小企業に影響をもたらしている。(食料品小売業) 商品の欠品は少なくなってきたが、原材料高騰や円安の影響による値上げは続いており、先行きは不安である。(繊維・衣服等卸売業)
オホーツク	<ul style="list-style-type: none"> 住宅資材は国産や輸入品を問わず仕入れ価格が上昇傾向にあるものの、価格転嫁が満足にできておらず、売上に変化はないが、利益は低い水準で推移している状況。また、仕入商品について、安定した供給がなされない状況が継続しており、今後の事業継続に不安を抱えている。(建築材料卸売業) 新築住宅よりも、リフォームや増築などがメインとなっており、資材の卸売り先が減少傾向にあるため、需要の拡大が課題となっている。(建築材料卸売業)
十勝	<ul style="list-style-type: none"> 電気代高騰もあり、オール電化にしている家庭からガスに戻せないか？という相談を受けている。顧客をオール電化から取り戻せるよう営業かけていきたい。(燃料小売業) 電気代の高騰により食品冷蔵庫の一部の稼働を止めているが、前年と比較して毎月100万円以上の電気代が増加している。(卸売業) 買受人は冷凍庫を持っているため電気代高騰の影響を受けており、電気代対策として商品の保管数を少なくするため市場の買い数量を減らしており、結果的に市場の収入が減少している。(卸売業)
釧路・根室	<ul style="list-style-type: none"> 食品小売りは高級果物などの出が鈍く前年比9割割れ。(金融機関)

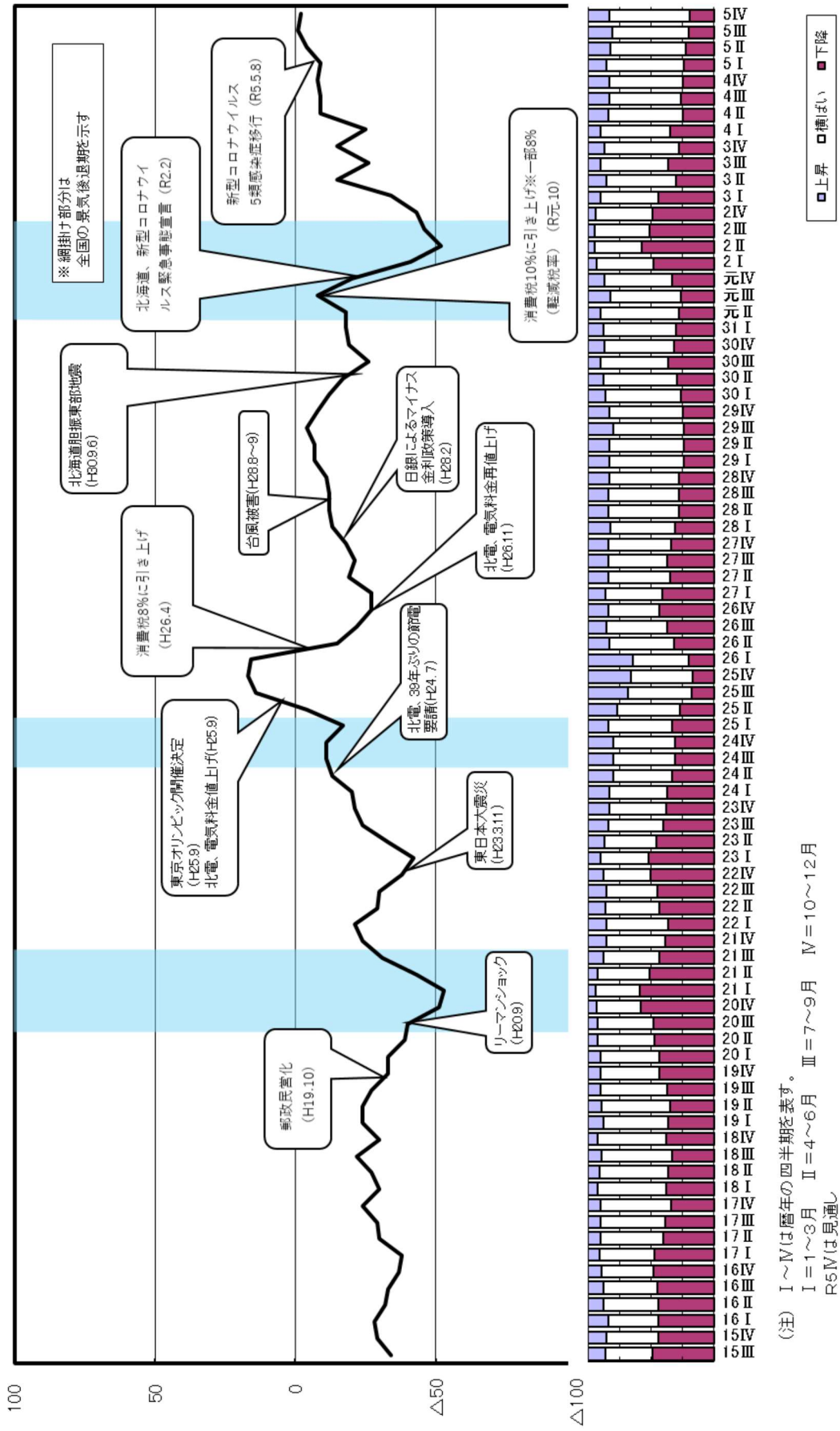
【運輸業】

道南	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 輸送実績は前年比では増加したが、コロナ前比では減少。施設工事が終了したことにより、トラック車両の輸送が減少している。(水運業) ▪ 船員が退職予定だが、その欠員がなかなか埋まらない。(水運業)
道央	<ul style="list-style-type: none"> ▪ タクシー業界ではタクシーの利用が減少していることに加え、コロナ禍の不況で離職した運転手が戻ってこない等、運転手不足で十分に対応できない状況。(商工会議所) ▪ 燃料高騰により利益率が悪くなっている。またタイヤ代やエンジンオイルも高騰しており利益減少要因になっている。(道路貨物運送業) ▪ コロナを機に荷動きが悪くなり、必要最低限を輸送するという動きになっている。トラックも20t(大型)が基本だったが、中・小型を使用することが多くなった。売り上げは若干増えたが、コストが上がった分、利益も減った。客から「運送コストを下げたい」との提案を受けるようになったが、人件費と燃料費が特に上がっているため、提案を受けるのが難しいのが現状。(道路貨物運送業)
道北	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 夏期のイベント等の活況が戻ってきており、足元の業績は回復に向かっているものの、今後、人員不足に対応していくために、事業系統・稼働数を減じていかなければならず、収入の萎縮が生じてしまう。また、燃料費高止まりの中で最賃改定や、物価上昇に伴う賃金見直しも必要で、資金繰りは苦しい状況が続く。(道路旅客運送業)
オホーツク	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 乗務員不足のため平日のバスを減便することを決めた。期間は当面の間としているが、通常運行に戻せる見込みはたっていない。退職者等の補充が追いついておらず、通常運行へ戻すためには、10名程度不足している状況。乗務員採用の就職相談会の開催や、免許取得費の助成なども行っているが、乗務員確保の決定打には繋がっていない。(道路旅客運送業)

【サービス業】

道南	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町に人は来ていて、キャンプ場の利用者も多い。団体バスも入ってきており、欧米からの観光客も目立つようになっている。(宿泊業) ・ キッチンカーによる利益の割合が増えている。(飲食店)
道央	<ul style="list-style-type: none"> ・ お盆時期は満室で稼働したが、夏季全体で見るとコロナ前の7~8割程度までしか回復していない。レストランだけの利用については、宿泊よりさらに回復が遅い。(宿泊業) ・ 人手不足の打開策としてメニューのタブレット化、食券機、セルフレジなどの導入を検討し、見積もりをとったが価格が高くて断念した。レンタルについても同様。閑散期の売上をカバーするため、ネット販売の強化が課題。毎月何かしら原材料費が値上がりしている上に、今夏は暑さの影響で野菜の値段が高かったところだが、メニュー価格の値上げは、昨年夏に実施したので当面は考えていない。(飲食業) ・ 今期は売上・利益等ともにコロナ禍前の2019年の水準に戻っていると考えている。宿泊料金については、6月から値上げしたが、物価高騰の影響はあるが安易に値上げするのではなく、付加価値を高めてから値上げするといったサイクルで料金を設定している。宿泊プランについては、これまでは15,000円代のミドル帯が多かったが今期は現在は20,000円超のプランも売れている。なお、観光地が賑わっているのは、これまでの自粛生活の反動であり、観光バブルと考えている。年内は続くと思うが、その先は不透明。(宿泊業) ・ 団体等の利用客は戻り始めてはいるが、2次会・3次会まで人が流れなくなっている状態。人的キャパ(コロナにより人手を減らした)により対応できず、宴会等は断っているお店も多い。人手不足の対応は急務。例えば、接客や注文など、DX(タブレット)の活用が不可欠となってきている。(飲食店)
道北	<ul style="list-style-type: none"> ・ インバウンドも動き出し、稼働率も上がっているほか、札幌のホテル単価の上昇に引きずられ、旭川においても宿泊単価が上昇している。一方で、従業員の不足が顕著となっている。(宿泊業) ・ 人手不足はどこも同じかと思うが、島では漁業と観光のピークが重なるため、中々人を雇いづらい状況が続いている。(飲食店)
オホーツク	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍でビジネス利用や観光旅行を控えていた反動と思われる旅行需要の増加により、コロナ前の2019年と比較し120%と好調で、直近3ヶ月においても100%超で推移している。今後しばらくは、100%超での見通しを立てている。(宿泊業) ・ 接客担当をはじめ、清掃などの維持管理まで全てのセクションで人材不足となっている。(宿泊業)
十勝	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求人募集をしても集まらず、人手不足の影響でホテルの客室稼働率が低い。(宿泊業)
釧路・根室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用客数は、コロナ前の令和元年の水準に戻っている。利用客は札幌等の道央圏や、道外であれば、関東圏からが多い。外国人は台湾・香港・マレーシア等のアジア圏からが多い。(宿泊業) ・ コロナ禍以前は清掃スタッフを委託していたが、コロナ禍で契約解除。客足が戻っている現在、以前の労働者は高齢などが理由で戻ってこないため、人員はやや不足。7月、8月の繁忙期は人手が足りないが、閑散期となると人手は余ってしまう。30年前までは季節雇用を採用していたが、現在は通年雇用のみである(宿泊業) ・ 現在約70人の外国人従業員がいるが、今後もっと雇用したい。(宿泊業)

8 業況感の長期推移



(注) I～IVは暦年の四半期を表す。
 I = 1～3月 II = 4～6月 III = 7～9月 IV = 10～12月
 R5IVは見通し

3

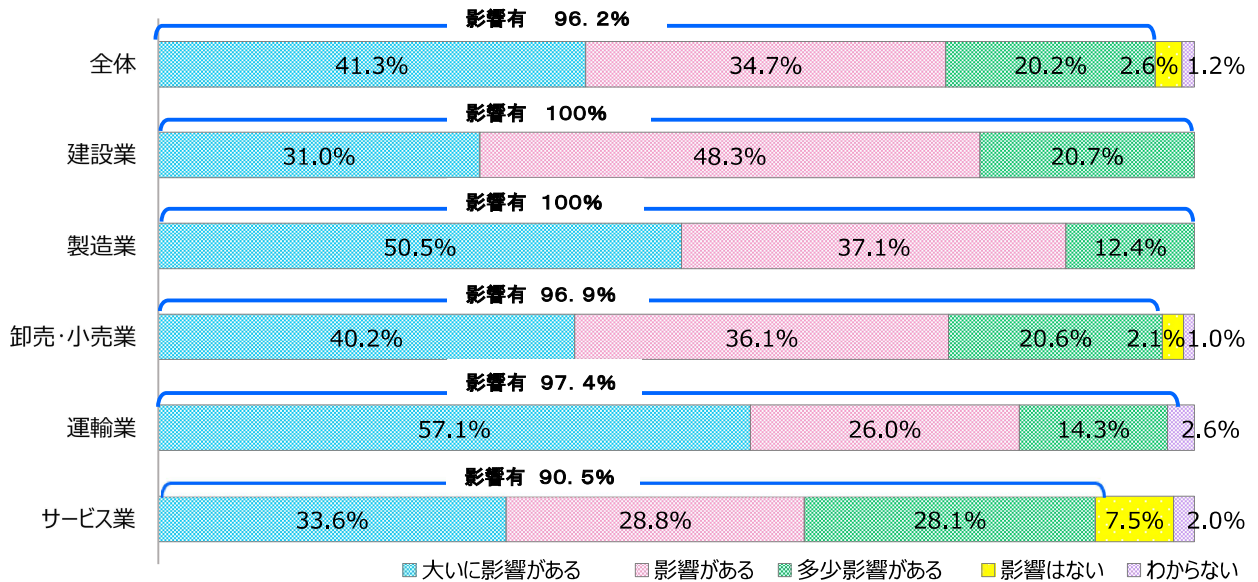
特別調査

1 原油・原材料価格高騰の影響について

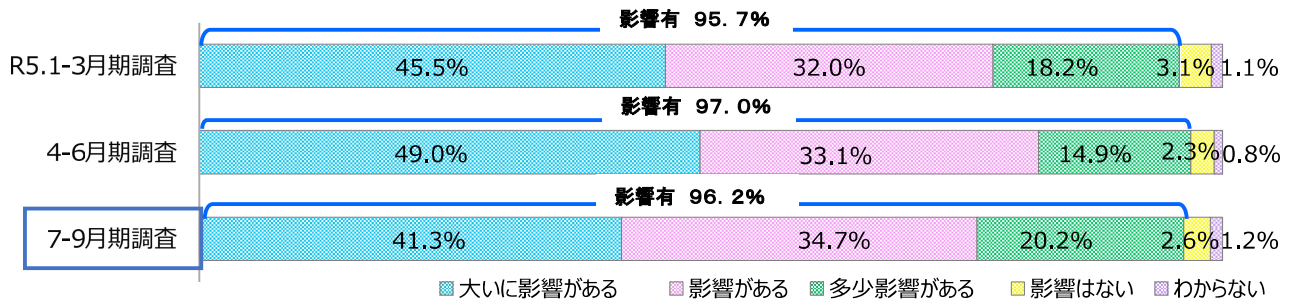
(1) 経営への影響

原油・原材料価格高騰の経営への影響について、全体では「大いに影響がある」と回答した企業の割合が41.3%と最も大きく、「影響がある」(34.7%)と「多少影響がある」(20.2%)を合わせた96.2%の企業が「影響がある」と回答。

業種別では、「影響がある」と回答した企業の割合は、建設業と製造業が100%と最も高く、最も低いサービス業でも90.5%となっており、すべての業種で高い割合。

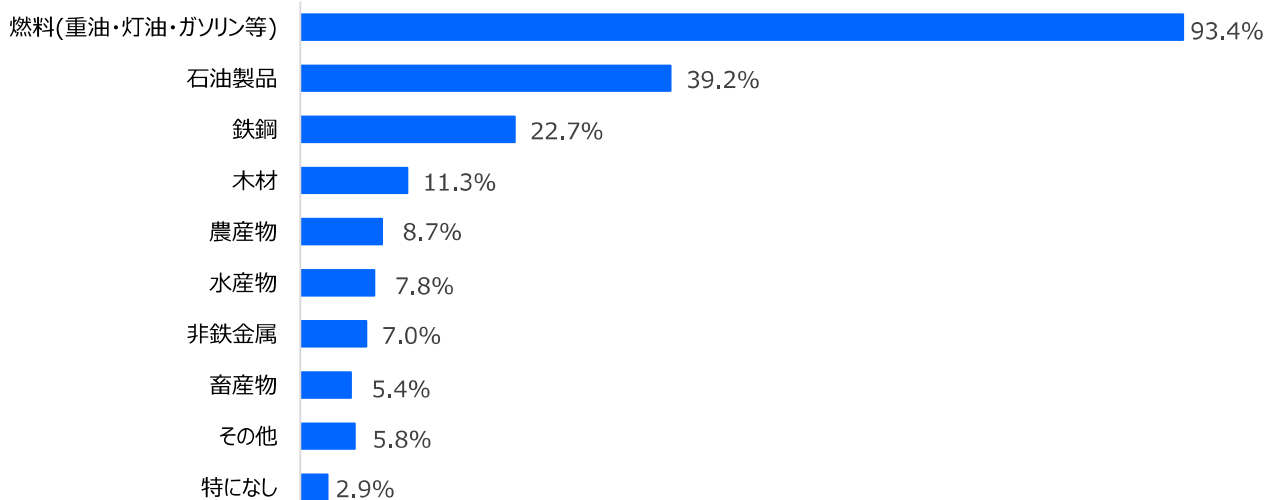


調査開始以降、「大いに影響がある」「影響がある」「多少影響がある」を合わせた「影響がある」と回答した企業の割合は、9割を超える高い水準で推移。



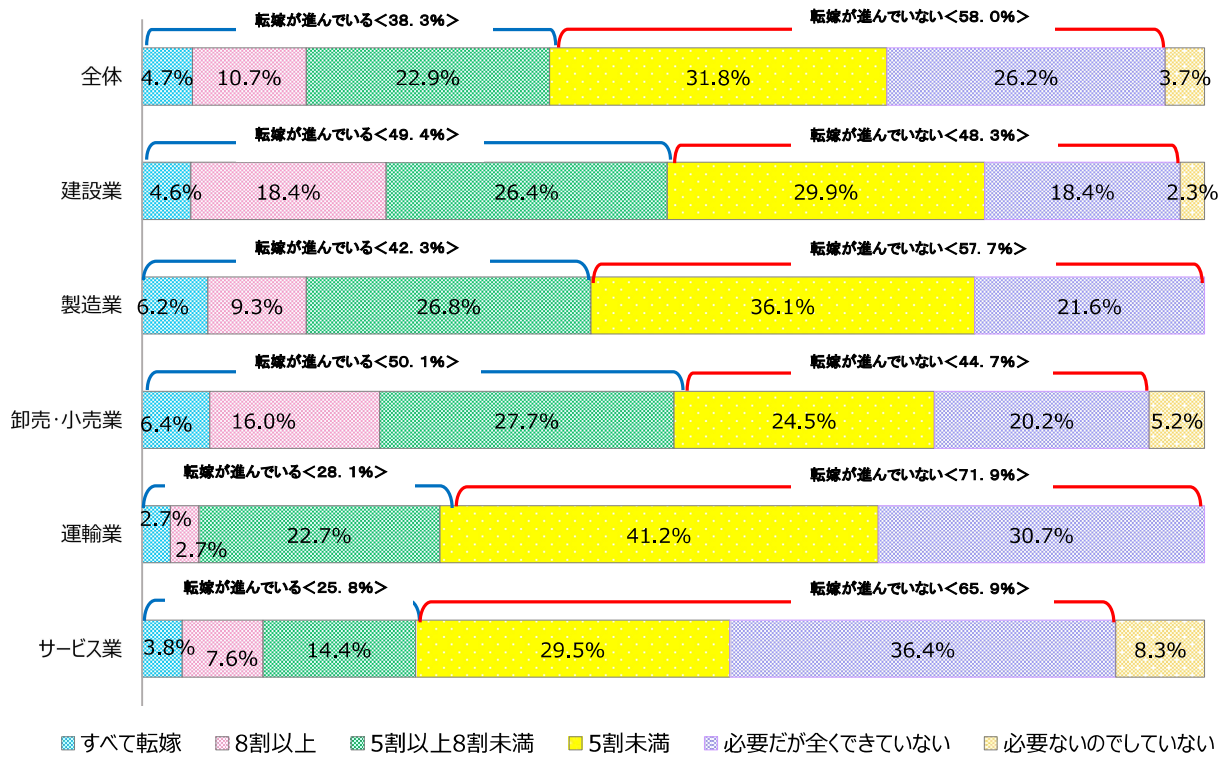
(2) 経営に影響を与えている品目 (複数回答)

経営に影響を与えている品目について、最も多かった回答は、「燃料(重油・灯油・ガソリン等)」の93.4%で、次いで「石油製品」(39.2%)、「鉄鋼」(22.7%)と続く。

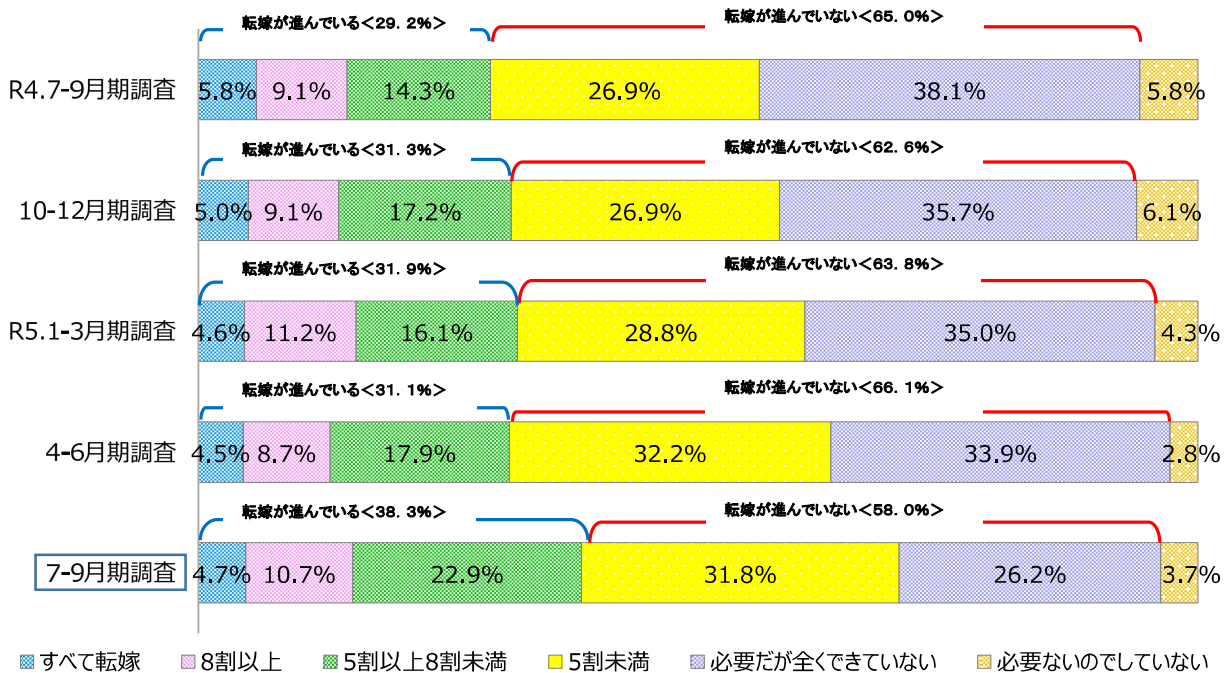


(3) 価格転嫁の状況

全体では、『価格転嫁が進んでいない』（「5割未満」及び「必要だが全くできていない」）企業の割合は58.0%。特に、運輸業（71.9%）、サービス業（65.9%）では、価格転嫁が進んでいない割合が高い。

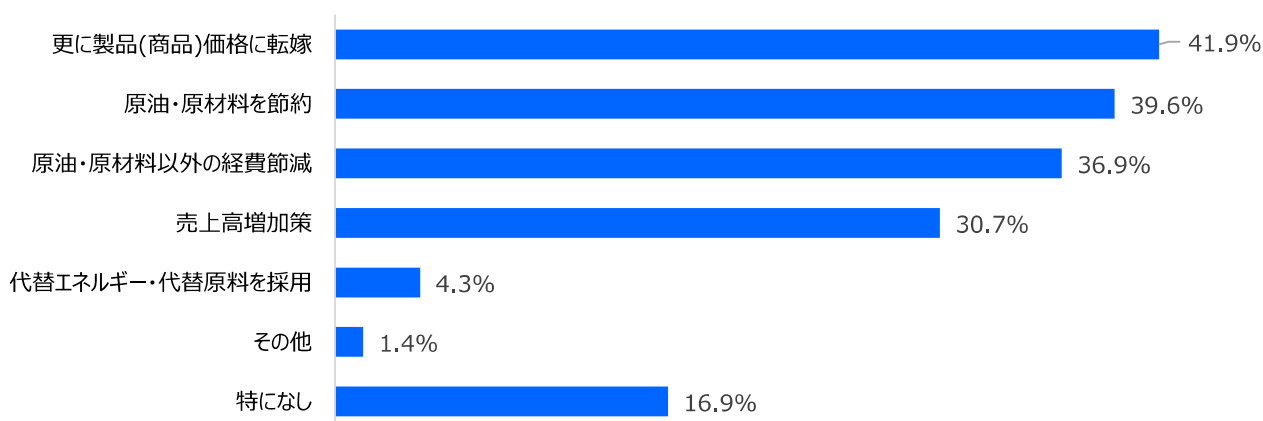


『価格転嫁が進んでいない』企業の割合は、依然5割を上回っているが、調査開始以降、減少傾向にあり、徐々にではあるが、コスト上昇分を価格に転嫁する動きが進んでいることがうかがえる。



(4) 経営への影響緩和対策（複数回答）

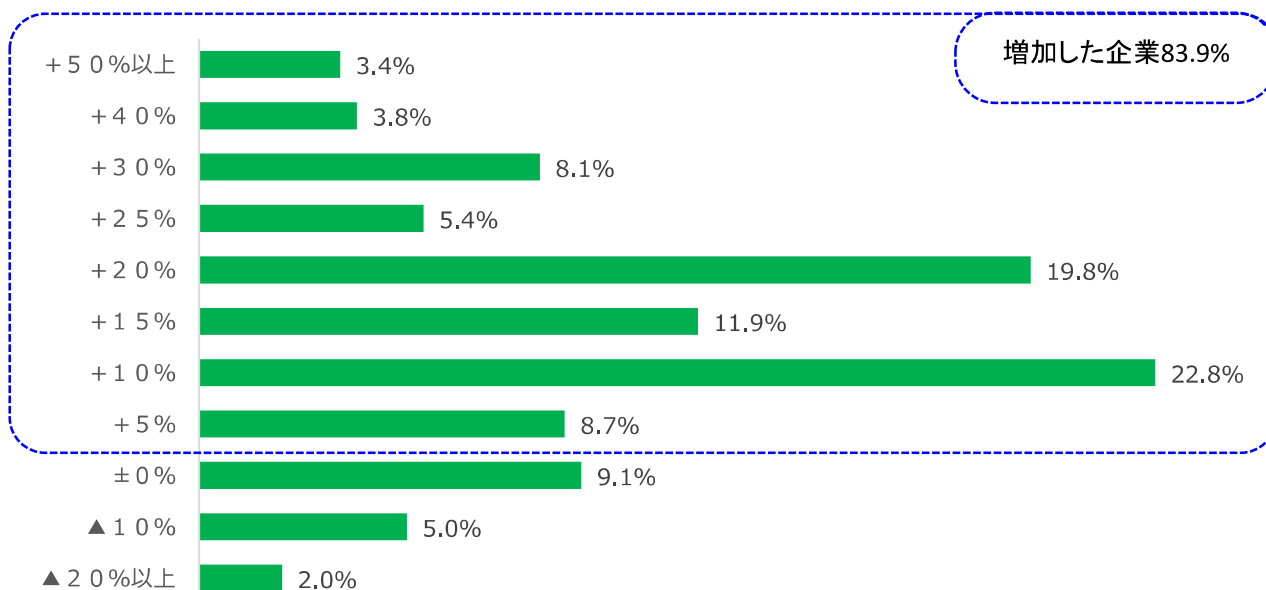
経営への影響緩和のため、「更に製品（商品）価格に転嫁」が41.9%、次いで「原油・原材料を節約」が39.6%と続く。



2 電気料金の上昇について

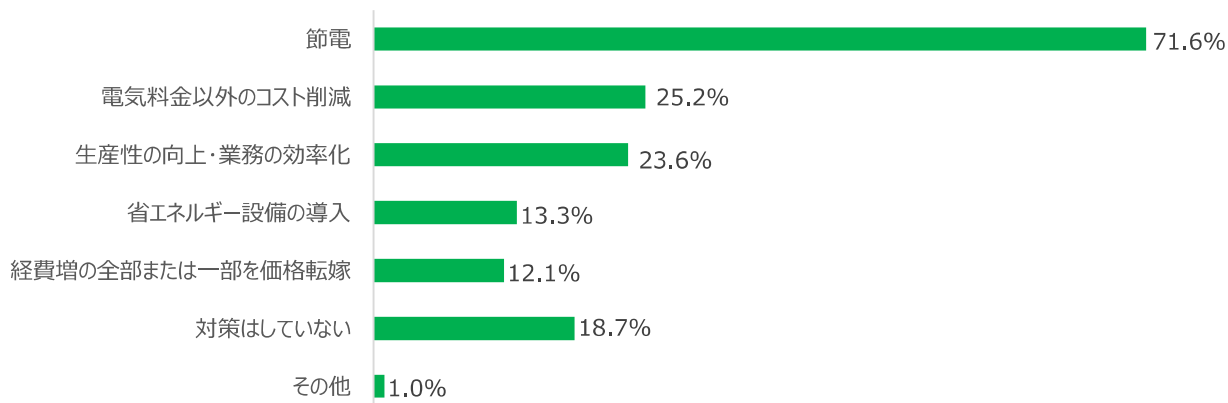
(1) R4年6月と比較したR5年6月に支払った電気料金の増減状況

R5年6月に支払った電気料金は、1年前のR4年6月と比較し、8割以上の企業で増加。増加率は、10%増加（22.8%）が最も多く、次いで20%増加（19.8%）と続く。



(2) 電気料金上昇の対策（複数回答）

電気料金上昇の対策として、「節電」が71.6%、次いで「電気料金以外のコスト削減」(25.2%)、「生産性の向上・業務の効率化」(23.6%)と続く。

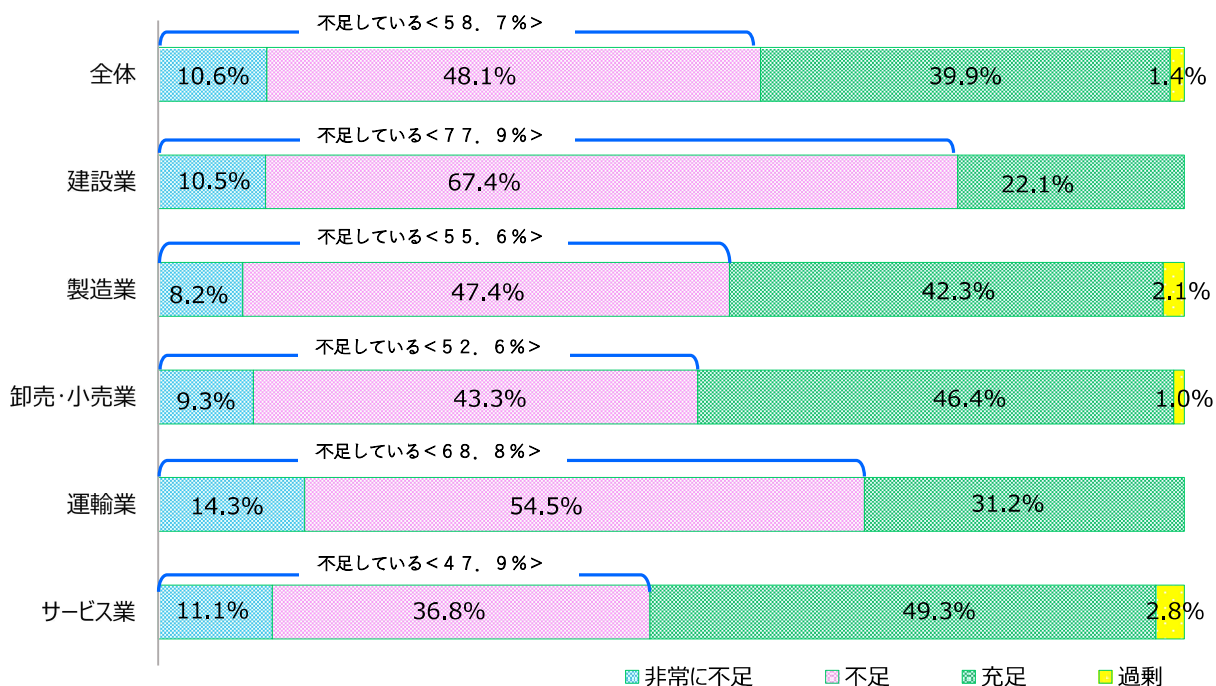


3 人手不足の状況について

(1) 正規従業員の充足の度合い

正規従業員の充足度合いについて、全体では「非常に不足」(10.6%)と「不足」(48.1%)を合わせた58.7%の企業が「不足している」と回答。

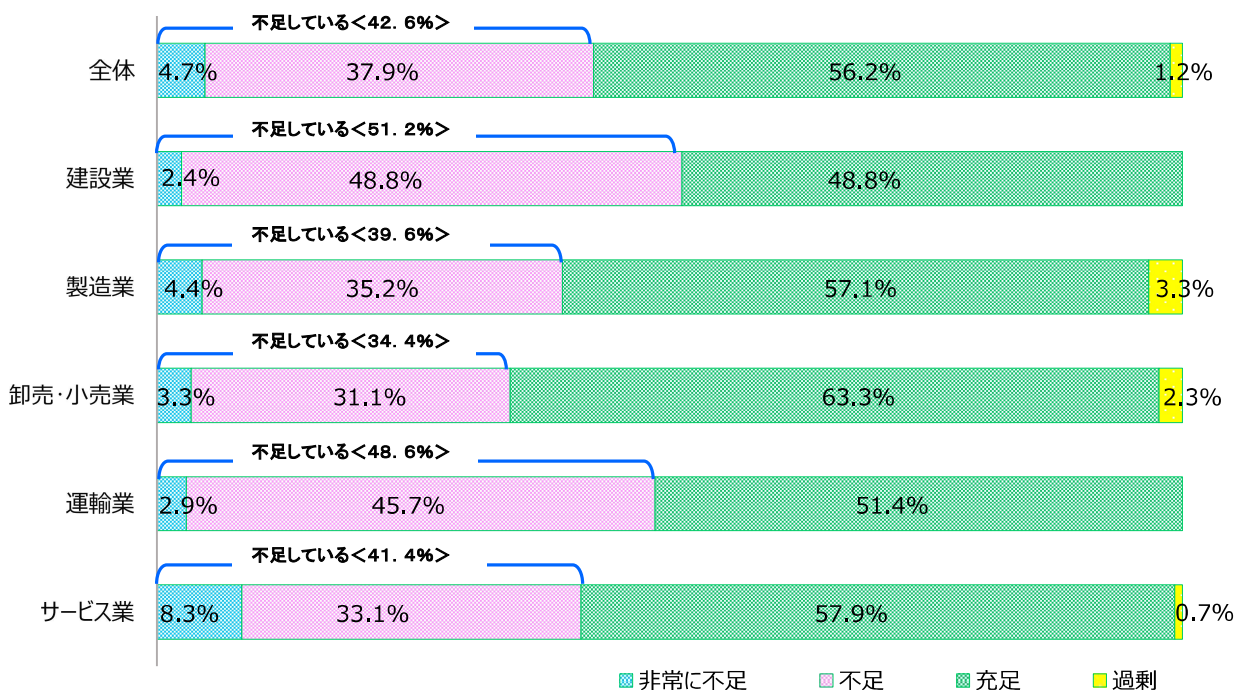
業種別では、「不足している」と回答した企業の割合は、建設業(77.9%)が最も高く、次いで運輸業(68.8%)、製造業(55.6%)と続く。



(2) 非正規従業員の充足の度合い

非正規従業員の充足度合いについて、全体では「非常に不足」(4.7%)と「不足」(37.9%)を合わせた42.6%の企業が「不足している」と回答。

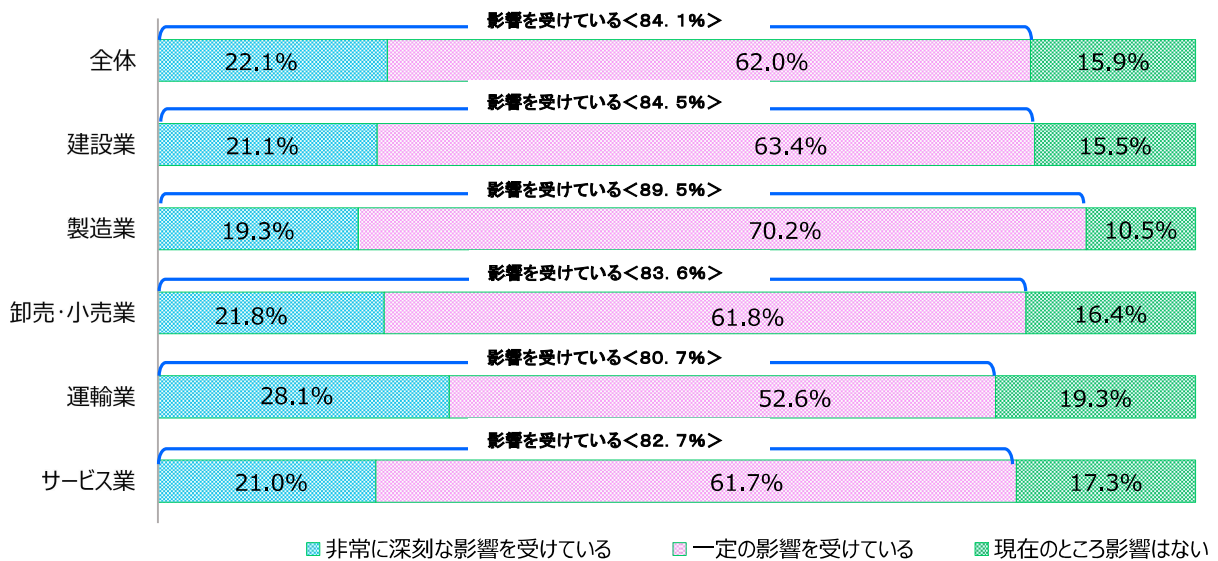
業種別では、「不足している」と回答した企業の割合は、建設業(51.2%)が最も高く、次いで、運輸業(48.6%)、サービス業(41.4%)と続く。



(3) 人手不足の影響の程度

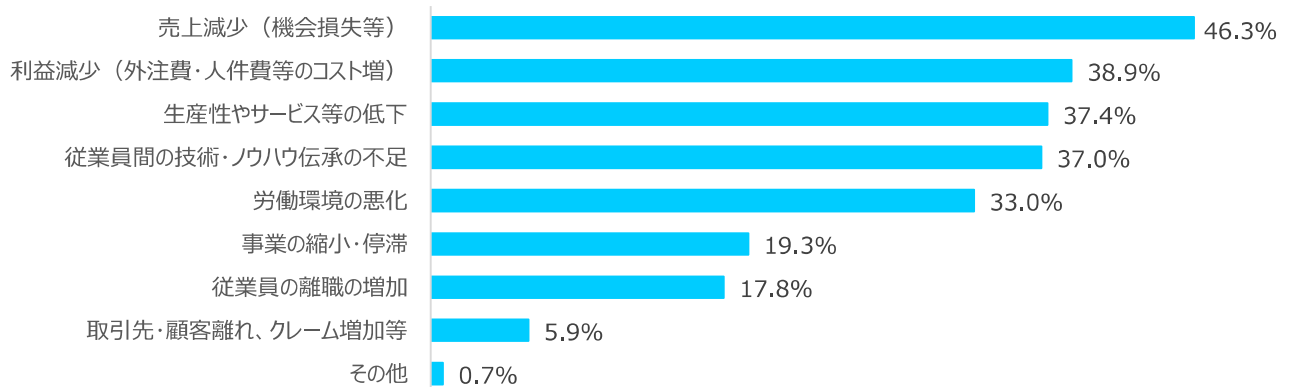
人手不足の影響について、全体では「非常に影響を受けている」(22.1%)と「影響を受けている」(62.0%)を合わせた84.1%の企業が「影響を受けている」と回答。

業種別では、「影響を受けている」と回答した企業の割合は、製造業で89.5%と最も高く、最も低い運輸業でも80.7%となっており、すべての業種で高い割合。



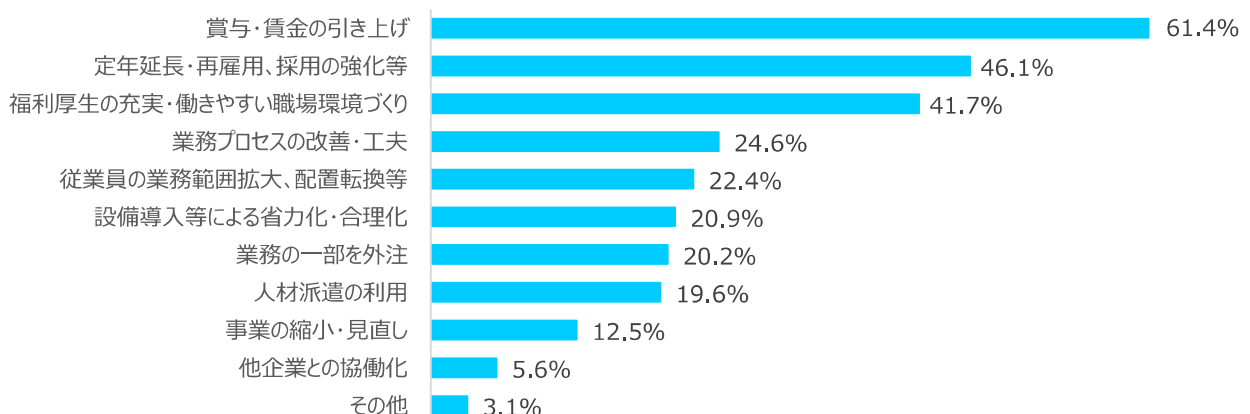
(4) 人手不足の影響に関する具体的な内容(複数回答)

人手不足の影響としては、「売上減少(機会損失等)」が46.3%と最も多く、次いで「利益減少(外注費・人件費等のコスト増)」(38.9%)、「生産性やサービス等の低下」が(37.4%)と続く。



(5) 人手不足の影響緩和対策(複数回答)

人手不足の対策としては、「賞与・賃金の引き上げ」が61.4%と最も多く、次いで「定年延長・再雇用、採用の強化等」(46.1%)、「福利厚生充実・働きやすい職場環境づくり」(41.7%)と続く。



4

調査方法

1 調査内容

道内の企業経営者に対し、自社の経営状況や景気の見通し、経営を取り巻く環境変化などについて四半期毎に調査を実施

2 調査時点

令和5年9月30日

3 調査方法

「郵送」又は「インターネット」によるアンケート調査

4 調査対象及び回答企業数

区 分	調査対象 企業数(A)	回 答 企業数(B)	回答率	
			(B/A・%)	
総 計	900	504	56.0%	
札幌市を除く	701	389	55.5%	
札幌市	199	115	57.8%	
業 種	建設業	125	87	69.6%
	製造業	150	97	64.7%
	卸売・小売業	188	97	51.6%
	運輸業	131	77	58.8%
	サービス業	306	146	47.7%
資 本 金	5千万円未満	618	331	53.6%
	5千万円以上～1億円未満	156	99	63.5%
	1億円以上	126	74	58.7%
地 域	道南	109	62	56.9%
	道央	382	216	56.5%
	札幌市を除く	183	101	55.2%
	札幌市	199	115	57.8%
	道北	132	79	59.8%
	オホーツク	89	41	46.1%
	十勝	94	52	55.3%
釧路・根室	94	54	57.4%	

(注) [道南]・・・渡島総合振興局、檜山振興局
 [道央]・・・空知総合振興局、石狩振興局、後志総合振興局、胆振総合振興局、日高振興局
 [道北]・・・上川総合振興局、留萌振興局、宗谷総合振興局
 [オホーツク]・・・オホーツク総合振興局
 [十勝]・・・十勝総合振興局
 [釧路・根室]・・・釧路総合振興局、根室振興局

その先の、道へ。 北海道

5 BSI(Business Survey Index) 指標について

この調査では、企業経営者の業況感等について、当該四半期の状況を前年同期と比較して(景況感
は前期)、「上昇」「横ばい」「下降」の選択肢により調査し、各BSI指標を次により算出。

$$\text{BSI} = (\text{「上昇」とする企業の割合}(\%)) - (\text{「下降」とする企業の割合}(\%)) \\ (-100 \leq \text{BSI} \leq 100)$$

【計算例 (企業数 : 200 社)】

業況感について、「上昇」とした企業 20 社、「横ばい」とした企業 120 社、「下降」とした
企業 60 社の場合

$$\frac{20 \text{ 社}}{200 \text{ 社}} \times 100 - \frac{60 \text{ 社}}{200 \text{ 社}} \times 100 = 10\% - 30\% = -20$$

よって、この場合の業況感BSIはマイナス 20 ※小数点以下の端数がある場合は四捨五入

企業経営者意識調査 (第139回)

令和 5 年10月発行

編集・発行北海道経済部経済企画局経済企画課

T E L 011-204-5139

「企業経営者意識調査」の結果は、経済企画課のウェブサイトでもご覧いただけます。

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/bsi.html>